

黒部第四ダムを見学して

(株)第一コンサルタンツ取締役 矢田部龍一

(株)第一コンサルタンツ社員旅行

右城社長からのメールを開くと社員旅行の案内である。4月から第一コンサルタンツの相談役にしてもらっているが、こういう形で社員として扱ってもらいと何か嬉しさを感じた。今年の3月まで38年間に渡って大学教員として働いたが、社員旅行なるものはなかった。団体旅行に行くのは、中学の修学旅行以来となる。実に42年ぶりのことである。旅行先はどこだろうと、行程表を見ると、何と黒四ダムである。

黒部アルペンルートは35年も前になるであろうか、一度、見学に出かけている。金沢市で地盤工学会が開催された際に卒業生数人と出かけた。もちろん私が企画したのではない。まめな卒業生がいて、黒部アルペンルートから北アルプスの拠点である上高地などを周遊するルートを計画してくれた。7月頃のことであったと思う。梅雨が明けていなかったのか、黒四ダムは厚い雲に覆われていた。ただ、放水の迫りに圧倒されるとともに、スリムなアーチダムの美しさが記憶に残っている。また、慰霊碑に刻まれた多くの名前に手を合わせたことも覚えている。30数年の時を経て、黒四ダムの光景は脳裏から薄れつつある。日本の土木界にとって、シンボリックな大事業を今一度、目にする機会を得て、心は少なからず興奮を覚えた。

黒部の太陽

黒四ダムは、戦後の日本の高度成長のシンボリックな土木構造物である。戦後の日本は、電力の需要に供給が追いつかないほどの高度成長を遂げつつあった。そのため、関西電力は、増え続ける電力供給を賄うために難工事が予想される黒四ダムの建設に会社を上げて取り組むことになった。太田垣社長の命懸けの決断によるものである。

大規模破砕帯の掘削に挑む土木技術者の姿は、石原裕次郎主演の「黒部の太陽」に描かれ、昭和43年に公開された。黒四ダムの建設に際しては、今ではあり得ない程の多くの犠牲者が出た。まだ、日本が、そして日本人が本当に貧しい時代であった。しかし、貧しいけれど、命を懸けて難工事に取り組むだけの気概を、日本の技術者一人一人が持ち合わせていた時代でもあった。今では、トンネル掘削技術も飛躍的に進歩し、NATM工法を用いれば、比較的容易に大規模破砕帯を抜くことが出来る。

日本の発展を支えた土木技術者の気概

ところで、土木技術者は国の発展を支え、国民の安全と安心を確保するために働いてきた。明治初期、第1回文部省留学生として渡仏した古市公威は土木工学を学び、32歳で帝国大学工科大学初代学長となる。その後、工学会会長、理化学研究所所長などを務め、日本近代工学の生みの親と言われている。

田邊朔郎は遷都で火が消えたようになった京都の町が再び輝きを取り戻せるように、「琵琶湖疏水工事の計画」を卒論で取り上げた。そして、卒業後には琵琶湖疏水事

業を陣頭指揮し、完成させた。琵琶湖疎水による水力エネルギーを活用して、電気を起こし、その電気で市内電車を走らせ、また繊維産業を軌道に乗せて京都の町を復興させた。田邊朔郎が建設した琵琶湖疎水は 100 年以上の時を経た今日においても、疎水に沿って作られた哲学の道に代表されるように、多くの観光客を惹きつけている。一人の土木技術者の思いが、時代を超えて輝き続けている。

小樽港の建設に取り組んだ広井勇、広井教授の弟子でパナマ運河の建設工事に携わった青山士、台湾の烏山頭ダムと灌漑施設の建設に取り組んだ八田與一、信濃川大河津分水路可動堰再構築工事に取り組んだ宮本武之輔等々、・・・、土木技術者や研究者個々人が光り輝いた明治の時代があった。時は流れて戦後になると土木技術者個人が光り輝くことは少なくなった。黒部の太陽に描かれたように、土木技術者は力を合わせて、より大きな工事に取り組むようになった。青函トンネル然り、本四架橋然り、関西新空港然りである。多くの土木技術者が力を合わせて、世紀の大土木工事に取り組んできた。大土木事業の背後には多くの土木技術者の力の結集がある。

黒四ダムも、青函トンネルも、そこに突出したスターはいない。しかし、一人一人が仕事に生活をかけ、また、やり遂げるといふ信念を持ち、気概に燃えて取り組んだ。土木は建築と異なり、関わった全ての人の血と汗と涙が混ざり合っただけの大きなプロジェクトを完成させる。そのような努力が、今日の日本の発展を支えてきた。黒四ダムは、まさに戦後日本の発展を縁の下で支えた土木技術者の生き様を象徴するような巨大プロジェクトである。

時が流れて

時は流れて、その黒四ダムも観光のシンボルとなり、何と年間 90 万人もの観光客を惹きつけている。国内外から多くの観光客が訪れているが、迫力満点の黒四ダムを前にして、日本の発展を支えるために命懸けで建設に取り組んだ土木技術者の姿があったことを知る人観光客は少ない。土木技術者の生き様とは、そういうものかもしれない。今、多くの観光客が、その迫力に素直に感動している様を見ると、それで十分だとも思う。

今回、社員旅行という機会に恵まれて、30 数年振りに黒四ダムを訪れた。黒四ダムの建設は、戦後を代表する世紀の大土木事業であったことを改めて認識させられた。実に多くの犠牲者の上に完成した黒四ダムである。171 名の墓前に捧げるために、今後も発電に、観光に、燦然と輝く成果を出し続けて欲しいと心より願った。

黒四ダムの見学を通して、土木技術者の役割の素晴らしさを再確認させられた。400 年以上も前に建造された国宝松本城の見学も合わせて、建設技術者の心意気に触れる素晴らしい社員旅行であった。このような機会を与えて頂いたことに心より感謝する。また、最後に、黒四ダムの見学が、参加した社員一人一人の心に大いなる感動を与え、土木技術者として、より強い誇りを持って社業に取り組む契機になったと確信する。

平成 29 年 5 月 28 日

「立山黒部アルペンルートの旅」に参加して

調査部 弘田 伸

1. はじめに

待望の立山黒部の旅。これまで何度も社員旅行の候補に挙がりながら投票で落選していた。一度は見ておきたかった黒部ダム。やっと叶った場所である。移動時間が長いのが気かりだが、今回の旅行は大変楽しみである。



3日間の移動経路

2. 高知→宇奈月温泉 (5月18日)

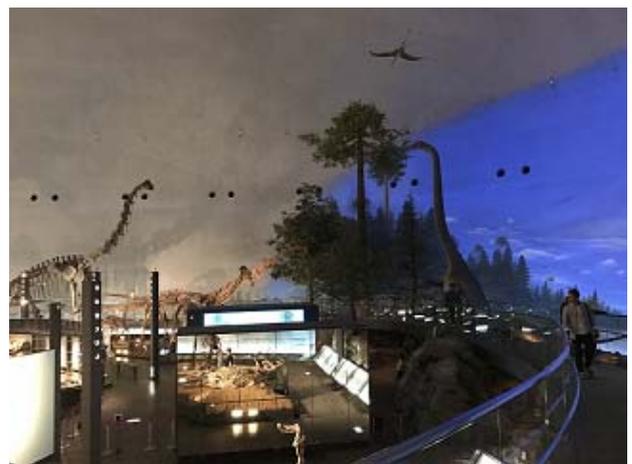
高知龍馬空港 7時45分発、カナダのボンバルディア・エアロスペース社製のプロペラ機で伊丹空港へ向け、第一班、総勢30名で出発した。8時30分伊丹空港着。以前はよく故障していた機種だが無事到着。9時前松山事務所の3名と合流し貸し切りバスに乗り換え今日の宿泊場所、宇奈月温泉に向け出発。

当初の予定は中国道から名神高速道路を経由して行く予定だったが、名神高速道路の集中工事で渋滞しているため、急遽予定を変更し舞鶴若狭自動車道を通り日本海側からのルートに変更となった。先が思いやられる。途中PAで一回休憩をとり予定より約20分遅れの12時過ぎ、昼食場所の福井県鯖江市、釜めし専門店「釜蔵」に到着。木曜日は定休日とのことだが、私たちのためにお店を開けてくれたようだ。ビールで乾杯し「カニ釜めし御膳」を美味しくいただく。



昼食のカニ釜めし

昼食を終え今日唯一の観光場所「福井県立恐竜博物館」に向け出発。13時40分恐竜博物館に到着。この博物館は恐竜化石の一大産地である勝山市に建てられた、恐竜を中心とする地質・古生物学博物館で、館内には恐竜の骨や映画のジュラシックパークにでてくるような模型が展示してある。その規模には圧倒されるばかりだ。



福井県立恐竜博物館内部

夜は露天風呂に入った後宴会で盛り上がり、移動疲れもありぐっすり就寝。

3. 宇奈月温泉→黒部ダム→松本 (5月19日)

今日の行程は、旅館→(①貸し切りバス)立山駅→(②ケーブルカー)美女平→(③高原バス)室堂→(④トロリーバス)大観峰→(⑤ロープウェイ)黒部平→(⑥ケーブルカー)黒部湖→黒部ダム(⑦トロリーバス)扇沢→(⑧貸し切りバス)松本である。

8時にホテルを出発。今日は晴天で絶好の観光日より。乗り換えが多くあるがこれも楽しみの一つ。まずは貸し切りバスに乗り立山駅に向け出発。



車窓から眺める北アルプス

立山駅からケーブルカーに乗り7分ほどで美女平駅へ到着。ここからはインバウンドなど多くの観光客で満員の高原バスに乗り換える。くねくね道をひた走り、途中落差350mの称名滝を眺めながら50分ほどで室堂に到着。車窓から眺める雪山の景色も絶景だ。



立山ケーブルカー

室堂ターミナルで昼食後、みくりが池往復コースを歩き池を目指す。天気がよく雪の反射がまぶしい。やはりサングラスが必要だった。池は氷が溶け始めたばかりでほとんどが雪に覆われている。池の畔には「日本一高所のみくりが温泉」がある。その後、雪の大谷を見るため徒歩で移動。今年の高時の高さは19mだったそうだが現在は雪が溶け16m。それでもビルの4階建てに相当し圧巻である。



積雪が残るみくりが池



雪の大谷最高地点 現在の高さは16m

室堂を後にし、トロリーバスに乗り 10 分ほどで大観峰駅に到着。この駅には名物駅員がおり乗車までの待ち時間を利用して名調子で観光案内をしている。みんなが聞き入っていると最後に写真集の売り込みだったことが分かる。笑いの渦に包まれるがお客さんもつられて購入することとなる。流石だ。その後、一本も支柱を使わないロープウェイとしては日本最長 1700m の立山ロープウェイ、黒部ケーブルカーを乗り継ぎ 14 時 47 分一番楽しみにしていた「黒部ダム」に到着。旅館を出てから 6 時間 50 分である。



立山ロープウェイ



立山トンネルトロリーバス



黒部ケーブルカー

関西地方の電力不足を解消するため建設された黒部ダムは、昭和 31 年から 7 年の歳月を経て完成し、世紀の大事業として語り継がれている。標高 1454m に位置し、ダムの高さは 186m と日本一をほこり、堤頂長 492m、堤頂幅 8.1m の巨大ダムである。



大観峰駅で説明する名物駅員



展望台からの黒部ダム

トンネル工事での破砕帯の掘削，171 名の方々が犠牲になるなど難工事であったことが知られているが，私たち測量技術者としては，このような急峻な地形で測量機器も進歩していないなかでも優れた測量技術あったからこそ工事にこぎ着けた。記録によると 5400m のトンネルが貫通したときの高さの誤差は 23 cm 1 mm だったそうだ。改めて工事に関わった先輩方に敬意を表す。

迫力満点の観光放水が始まるのが 6 月下旬からだったため少し残念だったが，そのスケールには圧倒された。



電気で走るトロリーバス

一時間足らず黒部ダムを見学し，日本で唯一の電気で走るトロリーバスに乗り扇沢駅へ。貸し切りバスに乗り換え今夜の宿泊地松本に向かう。

夜は，矢田部先生，横山技師長，松本次長と一緒に産地直送の美味しい魚と地元のお酒で楽しい夜を過ごした。



松本の夜に食べたイナゴの佃煮と蜂の幼虫

4. 松本→高知 (5月20日)

8 時 30 分ホテルを出発。10 分足らずで松本城に到着。松本城は昭和 27 年国宝に指定されており，現存する日本最古の五重六階天守である。その他国宝に指定されているの城は，犬山城・彦根城・姫路城・松江城である。高知城も国宝だと思っていたが残念ながら国の重要文化財であった。



国宝松本城 後方には北アルプス



殿様気分？

その後，明治 6 年に開校したわが国で最も古い小学校のひとつで国の重要文化財にも指定されている旧開智学校を見学。様々な教育資料が展示しており，木製の机や椅子は私が小学校の頃に使用っており，たいへん懐かしく思えた。



昭和 38～39 年に現在地に移転修理が行われた旧開智学校



小学生以来の懐かしの木製の机と子



教壇に立ってみたが、そこは矢田部先生だろうとダメ出しが・・・

昼食は石井味噌で豚汁などを食べ高速道路をひた走り伊丹空港に向かう。19時20分伊丹空港発、20時5分高知龍馬空港到着。帰宅の途について。

5. おわりに

個人的には行く機会がないであろう「立山黒部アルペンルートの旅」何より3日間天候にも恵まれ壮大な景色や黒部ダムを見ることができ大変有意義な旅行となった。土木技術者の端くれとして改めて先人たちの偉大さに驚かされ感動を覚えた。

今回の旅行でリフレッシュし今年一年の弾みとしたい。

もう一度行きたい立山黒部アルペンルート 明坂宣行

■はじめに

今回の社員旅行のメインは、世紀の難工事として有名な黒部ダムとの認識であったが、ガイドからの説明で、“もう一度行きたい観光地”、“二度と行きたくない観光地”の両方がこの立山黒部アルペンルートとの紹介があり、さらに期待が膨らんだ。ここでは、三日間の旅行のうち黒部ダムとアルペンルートを中心に報告する。

ちなみに、黒部ダム建設で重要な役割を果たす大町トンネルの着工は、ちょうど私が生まれた昭和31年にあたる。

■黒部ダム、と我がふるさとの早明浦ダム

□黒部ダム

このダムの型式は、アーチ式で前面が垂直(186m)である。経験のない堤頂から直下の眺めを期待していたが、やはり恐怖で足がすくんだ。



現地で気がついたことは次のとおり。①ダム湖両岸には道路がない、②漂流流木が少ない、③放流が全くない。ダム建設には絶好の位置、地形で、北アルプスに我が物顔で居座っている。

□早明浦ダムとの比較

私が小学生の時、町の西端に早明浦ダムが建設され、その当時周辺環境に大きな変化があった。それは、①自宅の前の幹線町道は舗装もされていなかったが、両側に歩道を備えたバイパス的な、のちの国道が整備された、②小学校に25mプールが建設された、③小学校各教室にテレビが設置され放送設備も整備された、④私の学年の生徒数は120名を超え、田舎の小学校としてはマンモスであった。

こんな環境で育ったため、社会基盤の整備に魅せられて、高知高専への進学の際土木工学科を選んだ気がする。

左岸が私のふるさと本山町でもあり自慢の早明浦ダムと黒部ダムを比較してみた。

名称	黒部ダム	早明浦ダム
所在地	富山県立山町	高知県本山町(左)/土佐町(右)
河川	黒部川水系黒部川	吉野川水系吉野川
型式	アーチ式コンクリート	重力式コンクリート
堤高(m)	186.0	106.0
堰堤長(m)	492.0	400.0
堤体積(m ³)	1,582,000	1,200,000
流域面積(m ²)	188.5	472.0
灌水面積(m ²)	349.0	750.0
総貯水量(m ³)	199,285,000	316,000,000
利用目的	水力発電	洪水調節、利水・灌漑・上水道・工業用水、発電
事業主体	関西電力	水資源機構
電気事業者	関西電力	電源開発
発電所名 [認可電力kW]	黒部川第4発電所 [335,000]	早明浦発電所 [42,000]
施工業者	間組、鹿島建設、熊谷組、他	間組
着工/竣工(年)	1956/1963	1963/1975

by Wikipedia

①型式はアーチ式、コンクリート式と異なる。②堤高は圧倒的に黒部が高い。③早明浦は、流域面積で二倍以上、貯水量で五割増。④目的は、早明浦が四国の水がめといわれ様々な利用がなされているのに対し、黒部は発電のみ。

暴れ川四国三郎の洪水調節、灌漑・上水、発電など四国地域で重要な役割を果たす早明浦、圧倒的な発電量で関西地域に貢献する黒部、という構図。

□黒部ダムの石碑

ちょっと見にくいですが「黒部ダム」の石碑があった。(写真-1)これを見て早明浦ダムの記念碑の逸話を思い出した。当初の刻字は「四国はひとつ」、

高知の県知事が難色を示し「四国のいのち」に到着したと、高知県技術士会の会報で知った。要因は水不足と言われたが、それ以外にも様々ある。

■大観峰からの絶景[標高約 2,300m]

黒部湖、後立山連峰が広がる。手前のロープウェイがダムを繋ぐ。最高の天気・眺望、美味しい・ひんやりとした空気であった。天気に感謝、感謝。



口雪の大谷で活躍する「立山熊太郎」

春の営業開始の際、除雪で必ず報道される「立山熊太郎」。写真-2 は初代熊太郎で、最大 1 時間当たり 4,000t を除雪する。2006 年まで活躍した。現在はブルペンマシンとして待機している。



写真-1 右が黒部ダムの石碑



写真-2 初代立山熊太郎

■国宝、松本城のおもてなし隊

本丸入り口では、写真-3 に示す装束のおもてなし隊が出迎えていた。朝の入場時には忍者であった。たしか高知城では、土佐犬がその役割を担っていた気がする。本丸の堀はあまりに浅かった。

■恐竜博物館（福井県立）

恐竜博物館として規模も大きく本格的であった。黒川紀章の設計した館で、斬新なスタイル、熟慮されたレイアウトであった。館内では、実物大の精巧な恐竜の模型がなまめかしく動いていた (写真-4)。ここでは恐竜化石発掘など調査研究がなされているが、中国人研究家が過半数とのこと。

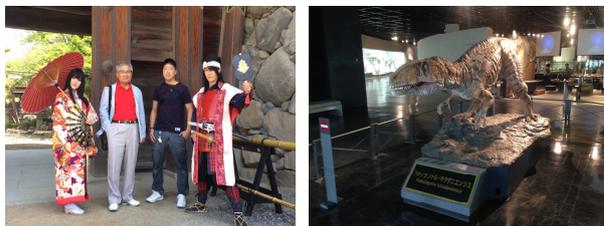


写真-3 松本城おもてなし隊 写真-4 精巧なカイワレ・トル・ツグ・エクス

■おわりに

すばらしい天気で日本の大自然とスケールのでっかい黒部ダムを満喫・体感できた国内過去最高の社員旅行であった。

準備、運営に尽力頂いた関係者の皆さま、同行した第一班の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

もう一度、紅葉の時季に行きたいと思います。



楽しく過ごした第一班 30 名と添乗員の宮川さん(右)

1. はじめに

今回の目玉は、何と言っても「立山黒部アルペンルート」であろう。

私はこの話を書くことにする。

高知に住む私は別世界を体験することになった。

16m の雪の壁、驚愕の銀世界。



黒四ダムに抜けるアルペンルートは、ケーブルカー、トロリーバス、ロープウェイと、レアな乗り物で移動する標高 2,450m を目指す全長 90 km の異次元ルートである。

2. プロジェクト X

1 日目のバスは総移動距離、実に 500 km。だがこの移動時間が重要であった。バスの中で放映された NHK プロジェクト X「シリーズ黒四ダム（1）秘境へのトンネル地底の戦士たち」と「同（2）絶壁に立つ巨大ダム 1 千万人の激闘」。これをしっかり観ておかないと二日目旅程の味わいがガラリと変わる。特に

1 話目の大町トンネル（現関電トンネル）の話を知って通るアルペンルートは感慨深い。破砕帯を貫通する苦難の大工事は、実際にアルペンルートで通過すると、写真も撮れないほど一瞬だ。これが、もの作りの宿命なのだ。スムーズに利用できることこそが、重要である。

3. 立山黒部貫光株式会社

立山黒部アルペンルートは、この立山黒部貫光株が一手に運営している。これも中部山岳国立公園と黒四ダムという絶対無二な 2 つの宝を有しているからに他ならない。ここでふれておきたいのは、この会社の社名が「観光」ではなく「貫光」と洒落ているところである。公式の由来は「貫」とは時間を、「光」とは宇宙空間、大自然を意味しているのだが、創業者の遊びゴコロが、社員に受け継がれており、なんとも洒落っ気の多い社員たちだった。



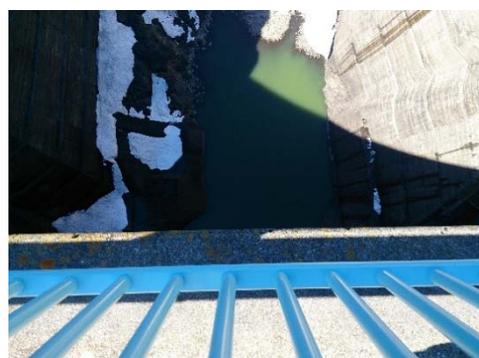
命令でも、お願い口調でもない丁度のあんばいの言葉づかいが、これまた良い距離感を作って、出会う社員が皆、個性的で洒落た会話術を持っていた。とにかく観光地で、気さくに話してくれたことは、楽しさを倍増した。立山黒部貫光(株)の社員の姿に習うべきことがあると感じ、会社とはあのように、1つの方向性をもって、一丸となって進むべきだとあらためて思った。

4. 黒四ダム



残念ながら、黒四ダムのスケールがあまりにも大きすぎて大地のような安定感があるためダムの堤頂からは、その迫力を感じられなかった。

下から見上げることが出来れば、巨大な堤体を感じられたのかもしれない。



これまた残念なことに、ダム放水は6月になってから行われるとのことでした。

そしてこの工事で命を落とされた 171名の慰霊碑は、上部の落雪や落石等の危険性があるとのことで、近くまで行くことは出来なかった。



しかし、プロジェクト X で観た、あの難工事を感じさせないこのダムの存在感は、やはりもの作りの宿命であり真骨頂なのだと思った。

5. おわりに

約 60 年前、日本第二の巨大都市大阪は電力不足で発展の歩みを止めようとしたが、この大プロジェクトによって、息を吹き返し大発展を遂げる。そして今は立山黒部アルペンルートとして外国人旅行者が全体の 80%の割合で訪れている世界的な大観光地となっている。かけがえのない命の遺産。171名の死は、日本に二つの経済効果を残してくれたのである。

今回の社内旅行も、本物を観たことによって、社員の人間力をアップさせることが出来たと思う。

そして、このような体験を福利厚生として行い、次の日を日曜日にしてきている会社には、心より感謝する。

(Thanks 準備をして頂いた親睦会担当者、山本崇顕会長&快晴の三日間♪)

立山黒部アルペンルートの旅

総務課 明神 怜佳

1. はじめに

今年の社員旅行は立山黒部アルペンルート(黒部ダム)。私は、黒部ダムと聞いても名前を聞いた記憶があるくらいで、どこにあるのかさえ知りませんでした。

この後、黒部ダムで感動することになるとはこのときは想像もしていませんでした。

2. 福井県立恐竜博物館

1日目はほとんど移動であったため、唯一立ち寄ったところが恐竜博物館でした。

世界有数規模の博物館と言われるだけあって恐竜骨格や化石・標本、復元模型などが展示されており、大迫力の恐竜を間近で見ることができました。

たくさんの恐竜の下に身を置くと、まるで現代から過去へタイムスリップしているかのような感覚になりました。



3. 宇奈月温泉 延対寺荘

長いバス移動を終え、宿に着くとまず温泉に入り、少し体を休めてから宴会へ。

普段関わりの少ない方とおしゃべりするのが社員旅行の醍醐味です。

この日は、宴会からラウンジでの飲み会、部屋飲みとやりきりました。



4. 雪の大谷ウォーク

2日目はバスに揺られながら雪の大谷へ。

アルペンルート全線開通直後の4月中旬～6月中旬にかけて、ダイナミックな雪の壁を見ることができます。この日の雪の壁の高さは16メートルほど。

天候は快晴で、雲一つない空の下を歩きながら、雪の壁に手形や足跡をつけて自分の行った証をつけてきました。



5. 黒部ダム

雪の大谷の見学を終えると、次は黒部ダムへ。ケーブルカー・トロリーバスなどを乗り継いで黒部ダムに向かいます。

初日の移動中に見たビデオ(プロジェクトX)のことを思い出し、トンネルを見ただけで興奮が蘇ってきました。

トロリーバスを降り、トンネルを抜けるといよいよ黒部ダムとご対面です。

ダムの高さが日本一というだけあって、ダムの下をのぞき込むとあまりの高さに足がすくみました。想像以上に規模が大きく、昔の技術でこれだけのものを作ったのかと考えると感慨深いものがありました。

また、ダム展望台から見る景色は本当に素晴らしいものでした。

唯一の心残りは、貯水量が少なかったためダムの放流を見ることができなかったことです。



6. 松本城

松本城は戦国時代の永正年間に造られた深志城が始まりで、現存する五重六階の天守の中で日本最古の国宝の城です。

黒と白のコントラストが見事な景観です。



城内に入ってみると、当時のままの姿が残っていて、とても急な階段が印象的でした。

昔の人は手すりを使わず登っていたということを聞き、私も挑戦してみたのですが、うまく下りることができませんでした。



松本城からバスへの移動中に、忍者体験コーナーを発見。吹き矢を体験してきました。



7. 旧開智学校

松本城見学後は旧開智学校へ。

旧開智学校の校舎は、長野県松本市開智に残る明治時代初期の洋風校舎です。文明開化における学校の役割を絵解きしたようなデザインで、文明開化時代の小学校建築を代表する建物です。

心得に「石や鉄砲の玉のようなものは投げでは行けません」などと書かれていて時代を感じました。

当時の子供達の日記も公開されていました。「朝、学校へ行く途中で爆撃機が飛んできたので家に戻りました」など、戦時中の子供の行動や気持ちが綴られており、胸が締め付けられる気持ちになりました。



8. おわりに

出発当時はどこにあるかもわからない黒部ダムでしたが、景色やダムの規模に感動することができました。また、料理もとても美味しく、癒やされる旅となりました。

社員旅行で行くことがなければ、黒部ダムに自分で行くことは絶対になかったと思います。

このような機会を与えて頂きありがとうございました。

立山黒部アルペンルートの旅

営業課 小野 裕正

1. はじめに

まさか、もう一度黒部ダムへ行くとは思いませんでした。最初は17歳の時、第一コンサルタンツ入社も考えてない、高校生の修学旅行。

学年全員で名古屋に一泊した後、土木科だけ別行程で黒部ダムへ。当時の写真を探すが見当たらない。記憶を辿れば、確か季節は初秋、曇り空で風が強く、とにかく寒かった思い出がある。

5月18日～20日の3日間、33年ぶりの黒部ダム周辺は、良い天候に恵まれた。

2. 移動手段

初日、飛行機と貸切バスで高知から富山県へ。



貸切バス(初日、昼食後の駐車場で)

2日目、立山黒部アルペンルートで高原バス、ケーブルカー、トロリーバス、ロープウェイを乗り継ぎ、富山県から長野県へ移動。



雪の壁(高原バス車内の補助席より)

パンフレットに『乗り継いで行くのが、また楽しいんです。』のキャッチフレーズがある。

トラブルもなく順調に移動。利用客が、時間を守れば、余程のアクシデントが無い限り予定時刻に出発し到着する。

最終日、貸切バスと飛行機で高知へ。

特に、貸切バスの長距離運転手は時間に正確で、あらためてプロだと感心した。

3. 観光客

海外の団体客が多く、立山黒部アルペンルートの乗り継ぎは常に満席。座れない人も多数。



ケーブルカー内の混雑

よく中国語や韓国語が耳に飛び込んできた。

写真を撮りたいポイントでは、大概外国人に占領されていた。当日、観光客の約7割が台湾人と言っていた。雪が珍しいのだろう。



立山雪の大谷(標高2,450m)

ポスターには『雪は壁になる。』のキャッチコピー、雪で壁を造り観光資源にしている。

除雪予算は、年間およそ1億円。



四代目除雪車と初代の部品

昔は、雪上ポールを目印に除雪。現在は、測量やカーナビで馴染みの GPS を活用し、容易に位置を把握、作業効率も上がった。3日間、一年の内で滅多にない良い晴天の旅。天候により、観光客の気分は大差はあったと感じた。

4. 建築・建造物

初日に唯一立ち寄った、福井県立恐竜博物館。



建築家 黒川紀章の作品

エスカレーターを降りた地下1階から観覧。
2日目、33年ぶりの黒部ダム到着。



延べ1,000万人もの人手による作品

コンクリートアーチダム、高さは186m、日本一である。最終日、まずは国宝 松本城。



戦国時代の城主の作品

400年余りの風雪に耐えて、柱や梁は当時の木材で現存している。

最後は、重要文化財 旧開智学校



大工棟梁 立石清重の作品

和風と洋風が混じり合った擬洋風建築。当時の机や教科書、設計図面も展示されていた。

3日間で、戦国時代から近代までの建築・建造物を見て回れた。

5. おわりに

黒部ダムは、天候のおかげもあり33年前より良い印象だった。残念ながら殉職者慰霊碑付近は、崩壊の恐れで進入禁止。しかし400年以上経って現存する城もある。最終日、開通50年経過した名神高速は集中工事中の表示。幸い土曜休日で渋滞は無かったが、社会インフラの維持管理は、これからも更に重要になると認識した。

2泊3日の社員旅行は、あっという間だった。

立山黒部アルペンルート社員旅行

営業部営業課 山本 剛也

1日目

5月18日から20日まで2泊3日の日程で福井、立山黒部アルペンルート、松本への社員旅行に参加しました。1日目は、高知空港から伊丹空港へ飛行機で移動し、そこからは本日の宿泊地の宇奈月温泉までバス移動しました。昼食は、福井県鯖江市にある釜飯専門店釜蔵で美味しいカニ釜飯を頂きました。昼食後は本日の見学地福井県立恐竜博物館に向かいました。恐竜博物館の中を少し進むと忠実に再現された恐竜のロボットが迫力満点で迎えてくれました。この規模の大きさの恐竜博物館は日本ではこの福井恐竜博物館だけとあって数多くの化石が展示されておりました。次は家族で訪れてみたいと思いました。



2日目

2日目は、朝早く旅館を出発し、立山黒部アルペンルートに向けて出発しました。まず、バスで標高475mにある立山駅まで移動し、立山駅からは立山ケーブルカーで標高977mにある美女平に移動しました。そこからは再びバスに乗り標高2450mの室堂高原にむけて移動しました。私が少し体の不調がでてきたのがこのバス移動からでした。出発してしばらくすると頭痛と吐き気が襲ってきました。そして眠気が襲いその後は到着まで眠っていました。到着して起きると激しい頭痛が襲ってきました。バスを降りてまず感じたのが酸素が薄いことでした。その後は頭痛と吐き気が酷くなり昼食もほとんど食べることができませんでした。体はものすごく辛かったのですが、目の前の雄大な自然を見ていると気が休まり思わず体が動いて、雄大な立山の自然を写真撮影をしていました。しかし、その後歩くのもしんどくなり頭痛も酷く嘔吐もしました。もしかしたらこれが高山病なのかなと思いスマートフォンで検索してみると症状がほぼ一致してました。



高山病がこんなにつらいものなのかと身を持って体験しました。室堂高原からはトロリーバスとロープウェイとケーブルカーで標高1454mにある黒部ダムまで移動しました。その間も高山病の症状は続きました。症状が治まったのは黒部ダムに到着したころでした。黒部ダムはしっかり見学出来たので心の底からうれしかったです。黒部ダムは立山の壮大な自然同様に本当にスケールの大きなダムでした。当時の工事の様子の記事を見ていると熱いものが込みあげてきました。戦後復興の象徴として後世に伝えていかなければいけない大切な土木遺産だと感じました。売店では、ダムカードを配布していることをダムの案内係の方に教えて戴いたので記念にダムカードを頂きました。見学後は、関電トンネルトロリーバスに乗り長野県側からの出発地点扇沢駅に移動し、私にとってはとても辛く長かった立山黒部アルペンルートの行程が終了しました。そこからは、バスで一路長野県松本市のホテルに移動しました。夜は自由行動でしたので夕食は、信州そば、松本山賊焼き、馬刺し等松本のご当地グルメを堪能して二日目の日程は終了しました。



3日目

最終日の3日目は、午前中に国宝の松本城と重要文化財の旧開智学校校舎を見学しました。松本城は戦国時代に造られた深志城が始まりで国宝の城の中で一番歴史がある城だとガイドさんからお聞きました。天守は毎年黒漆を塗布して美しい松本城を維持しているそうです。高知城とはちがい平城で規模も高知城ほど大きくはないですが、すごく貫禄がある天守はやはり国宝の城だなと感じました。旧開智学校校舎は和風と洋風が混ざりあった擬洋風建築で懐かしくもあり斬新な建築物でした。昼食は石井味噌さんで、味噌料理のフルコースを頂きました。売店で自宅へのお土産に白みそと赤みそと醤油を購入いたしました。午後は、伊丹空港に向けてバスで移動いたしました。バスの中では名神高速道路を移動中に国宝彦根城が幽かにみるもとが出来ました。



さいごに

今回の旅行では、バスでの移動時間が多く大変疲れましたが、高知からはなかなか行くことが大変な福井の恐竜博物館や立山黒部アルペンルートや松本に行くことが出来てとても有意義な社員旅行でした。立山黒部アルペンルートでは、高山病になり、大変辛く一時は歩くことも苦痛でしたが、立山連峰の雄大な自然とスケールが本当に大きく大迫力だった黒部ダムがそんなつらかった思い出を消してくれて本当にいい思い出になりました。



立川黒部アルペンルート 社員旅行

松山事務所 渡部清隆
平成29年5月18日～5月20日2泊3日

〈はじめに〉

第一コンサルタンツに入社して2年目、今年こそは旅行に参加するぞと決めていた。旅行先は特にどこでも問題なかった。会社を空にはできないので、日程を2班に分ける。

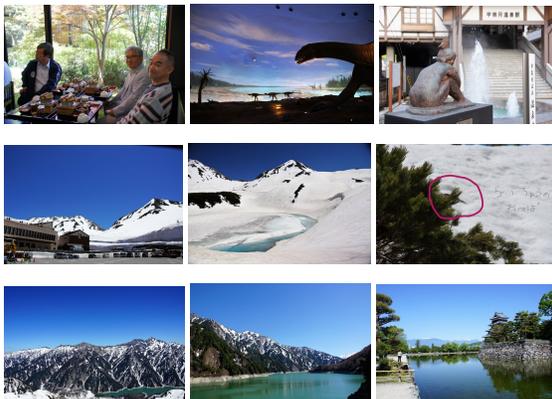
松山事務所の3人は先鋒として、第一陣に参加した。結果、この3日間360度、雲一つない快晴に恵まれる旅行となった。

〈用意周到〉

山歩きは若いころから好きで、テントを背負って近くの山に登っていた。

最近では記録写真を残すことも趣味の一つに加わり、旅行前からカメラやレンズ選びを用意周到に準備した。しかしながら充電したバッテリーパックを忘れてきてしまいバッテリーの節約のため厳選してシャッターを切った。どこを向いても絵になる景色、ポーズを取って撮ってくれと訴える仲間の写真を撮りながら3日間何とか撮影できた。

以下にどうよと自慢したい写真を添付します。



途中、室堂でまさかの雷鳥に出会うもシャッターが間に合わなかった。ハイマツの中に逃げ込まれ尾っぽだけ収まったがわかってもらえるか？雷鳥を見ると7年長生きできるそうである。実は前回訪れた時にも雷鳥に出会っているので都合14年長生きできる。

そうすると今62歳だから76歳までは大丈夫だと息子に自慢したらプラス14歳で62歳かもしれないと冷たい。30歳も過ぎて親のすねをかじっているのにいまだに父親の意見に反抗する。まあ息子に反抗されなくなったら父親の権威がなくなったようにも思うが

〈晴れ晴れ〉



最後に黒部ダムの殉職者171人の慰霊をしようと考えていたが、のり面崩壊の恐れが6月まで立ち入り禁止となっていた。

昭和30年代、私が生まれた時代に命がけでこの難工事に従事された方々の勇士に土木技術の進歩があった。優秀な測量機器やパソコンなどない時代に構造計算を確立された日本の土木技術を誇りに思い、少しではあるが、土木事業に携わってきて、道路や橋、港、トンネルと今に残る私の土木遺産がある。あと少し終活をするために健康維持、動ける体を保ちたい。

今回の社内旅行は年齢層も幅広く、また土佐県人との付き合いも少なかったことから非常に有意義な旅行で、大いにリフレッシュでき感謝感謝です。

社員旅行について

松山事務所 工藤 頌子

【 はじめに 】

5月18日から5月20日の三日間、初の社員旅行に参加しました。

中部方面へは一度、長野県へスキーに行ったっきり、ほとんど初めてのようなものでした。

どんな旅行になるのかと期待半分不安半分、荷物とともに連れて行きます。

【 1日目 】

松山空港から伊丹空港まで飛び、高知組と合流した後、バスで移動し昼食を済ませ、『福井県立恐竜博物館』へと向かいました。



メインは『恐竜の世界』で、他にいくつかテーマが設けられています。中でも私は『地球の科学』がテーマである、鉱物の展示に目を惹かれました。様々な色や輝きを放つ鉱物はとても綺麗で、『人では無く自然が生み出した物』という事実が、より鉱物の良さを際立たせるように感じます。



男性よりも女性が好みそうな空間でした。

【 2日目 】



この日はいくつか乗り物を使い継ぎ『雪の大谷』へ。



広大な景色に思わず、言葉を失いました。おまけに、雲一つ無い晴天といったお金では買えない最高のオプション付きです。

溶けて消えてゆく雪で壁(形に残る物)を創る。そういった人の柔軟な発想と実現させる技術に、ただただ感心するばかりでした。

アルペンルートを満喫した後はさらに移動し『黒部ダム』へ向かいます。テレビでは何度か見聞きしたことがありましたが、実物を目の前にすると、その雄大な規模に驚くことしかできませんでした。

6月下旬にはダムの放水が見られるとのことで、今回見学出来なかったのが

少し残念です。



次は、虹がかかる時期に見に行きたいです。

【 3日目 】

研修旅行最終日、まずは『松本城』へと足を運びます。



お城の階段と言ったら急で上りにくいイメージがありますが、『松本城』の階段の勾配は55°～61°、さらに急です。自然と階段を上る一步一步が慎重になります。

しかし、時間をかけてなんとか最上階まで辿り着き一望する景色は、とても爽快でした。



お城の中から見るとまた印象が違います。

その後バスで移動し『旧開智学校』へ。外装を正面からみると天使と竜があり、正月とクリスマスがあるような

日本らしさが垣間見えます。



建物の中へ入ると小柄な机や椅子や黒板が並び、どこか懐かしさを覚える反面、2階に上がると一部の窓には色ガラスがはめられています。このような細部に、擬洋風建築ならではの特長を感じました。

【 おわりに 】



その後、無事伊丹空港へ着き、松山空港まで帰着することができました。

今回の研修旅行は、天候にも、人にも恵まれていたとしみじみ思います。

私は普段松山にいる為、高知の方々とは接する機会がない分、初めは緊張しました。しかし気づけば最終日で、時間の流れがあっという間でした。

なかなか行けない土地へ行けたことと、このような貴重な時間を一緒にできたことが凄く嬉しかったです。ありがとうございました。

社員旅行に参加して

設計部河川砂防課 片岡寛志

1. はじめに

5月18日から5月20日まで2泊3日の日程で社員旅行に参加した。目的地は黒部立山アルペンルートであった。

2. バス移動

今回の旅行では、大半の移動手段がバスであった。1日目と3日目は日程の半分以上をバスの中で過ごすこととなった。

往路・復路とも比較的大型のバスであったので、大きなストレスを感じることはなかったが、それなりに疲れた。

ちょうど名神高速道路のリフレッシュ工事期間に重なったため、往路は渋滞を避けて舞鶴若狭自動車道へ迂回した。北上するにつれて田んぼの状況が変化する様を見るのは興味深かった。

復路は予定通り中央自動車道～名神自動車道を経由したので往路とは全く違う景色を楽しむことができた。所要時間に差がないのであれば、このように行き帰りで全く違うルートを通るのは良いかもしれない。

3. 福井県立恐竜博物館

1日目の昼食の後、福井県立恐竜博物館に向かった。福井県では恐竜の化石がよく見つかっている程度の予備知識しか持っていなかったが、思った以上に立派な施にはいい意味で期待を裏切ってもらえた。

館内の化石の大半はレプリカであったが展示数が非常に多く、限られた時間ですべてを見るのは難しかった。

これまで恐竜の骨格標本といえば越知町のトリケラトプスの頭蓋骨ぐらいしか見たことがなかったので、見上げるほど大きな雷竜や意味が解らないぐらい硬い甲羅を並べた鎧竜などは興味深く、あと1時間ぐらいは時間を取ってほしかった。

4. 宇奈月温泉

1日目の宿は宇奈月温泉であった。名前は聞いたことがあったので、それなりに大きな温泉街があるのだろうと予想していたが、以外とこじんまりとしていた。

夕食前に外を散策した。ところどころに無料の足湯が整備されていたり、駅前に温泉の噴水があるなどゆっくりと散歩を楽しむにはいいところなのだろうと思った。

結局夕食までの限られた時間では黒部峡谷鉄道の新山彦橋まで到達できなかったのが少し残念だった。

5. 黒部立山アルペンルート

さていよいよ2日目。今回の旅行の目的の黒部立山アルペンルートである。

天候は雲一つない晴天で否が応でも絶景への期待が高まる。とはいえ、少し(?)寝不足気味だったので立山駅までの記憶が無い。立山駅からはケーブルカーに乗り込む。40度はあろうかという急斜面をぐいぐい登るのは気持ちがいい。山腹を見ると大きく根曲がりをした木が多く見られた。積雪の荷重に耐えられずに曲がるらしい。

美女平からは路線バスに乗り換え。ギリギリまで乗客を詰め込むので、補助席に座ることになった。周りの景色はほぼ見えない。このあたりから頭痛が激しくなってきた。途中、称名滝や雪の壁を案内されたが、雪が眩しいばかりでよくわからなかった。

到着した室堂駅のまわりはすっかり雪景色であった。バスガイドさんからは平地との寒暖差が10℃以上になると脅されていたが、それほど寒いわけでもなく、上着を引っ張り出す必要もなかった。まわりを少し歩くだけで息が切れて頭痛が進み、高地にいることを思い知らされた。

昼食まではおとなしくしていたのだが、一向に復調の兆しが見えない。結局昼食を

ほとんど残してしまった。

昼食後は室堂駅に隣接する立山自然保護センターの展示室に座り込んで時間が過ぎるのを待った。

室堂から大観峰まではトロリーバスで移動した。座ることはできたのだが、調子は最悪だった。ああ思い出したくない。大観峰駅の皆さんご迷惑をおかけしました。

その後、標高が下がったせいか徐々に調子が戻り、大観峰からの眺めを満喫することができた。黒部ダムを望む景色も素晴らしかったが、大観峰から見上げる立山も良かった。

黒部ダムに向かうロープウェイは途中に支柱が無いことが特長らしく、まさに空中散歩の趣であった。そこから先は急傾斜の地下ケーブルカーで地下深く潜って行った。ケーブルカーを降り、地下通路を抜けるとようやく黒部ダムに到着である。

黒部ダムの大きさには感心したが、それよりもまわりの地形の急峻さに圧倒された。黒部川の上流を望めば残雪が湖面に映え、何時間でも眺められる気がした。



写真-1 黒部湖

残念ながら下流側を覗き込む勇氣は最後まで発揮できなかったのも、他の人が撮った写真で楽しむことにした。

ダムの水位が上がっておらず観光放水は実施されていないことは想定どおりだったが、慰霊碑と展望広場方面の遊歩道が浮石処理等のために通行止めとなっていたのは残念だった。

集合写真の撮影後、ダム展望台まで登っ

てみた。室堂での不調が嘘のように時間を掛けずに登りきることができた。ここでようやく黒部ダムの全貌を見ることができ、その途方もない大きさに先人の偉大さを再確認した。

黒部ダムをあとにしてトロリーバスで関電トンネル(旧大町トンネル)を抜けた。バスガイドさんからは大半の人が寝てしまう、破碎帯通過は覚えていない、と予告されていたが、その言葉通り途中のことは記憶にない。まあ、乗車地点から既にトンネルの中なので、歩き疲れた人間に寝るなという方が無理だと思う。

6. 松本城

3日目に行った松本城は好天のお陰で写真を撮るのが楽しかった。広い堀に映る城郭と雪の残る山脈は自分の腕が上がったと錯覚させるのに十分だった。



写真-2 松本城

外から見た天守閣は大きく感じられたが、中に入ると以外と狭く、特に階段の傾斜には驚いた。国宝なので大幅な改修はできないのだろう。午前中の人が少ない時間帯は問題ないのかもしれないが、ピーク時には流れが悪くなるのではなかろうか。

7. さいごに

今回の旅行は天候に恵まれ、景色や食事でも申し分なかった。そのため、室堂付近での体調不良だけが悔やまれる。

教訓：自分の体を過信しない。明るくなる前に布団に入る。

立山黒部アルペンルート観光

設計部河川砂防課 小島心平

初めに

平成 29 年 5 月 18 日から 5 月 20 日までの日程で、立山黒部アルペンルートの観光を主目的とした社員旅行に参加した。

北陸の地に足を踏み入れるのは初めてであり、全くの未知のエリアであった。

ありとあらゆる意味で新鮮、かつ貴重な体験ができた。

一日目

高知龍馬空港に 7 時に集合、9 時前には伊丹に到着、バスに乗り込みいよいよ旅の始まりという気分だった。お菓子と飲み物を買込み、準備は万端である。

伊丹空港から吹田スタジアムあたり、京都、滋賀を抜け北陸へ行くルートを想定していたが、なにやら名神高速道路でリフレッシュ工事が行われているらしく大渋滞が発生している模様。少し反対方向へ進み舞鶴を経由して北陸へ入った。山の中をしばらく走ると、やがて日本海が見えてきた。未知のエリアのスタートである。とはいえ建物の屋根が積雪を見越した形であったこと以外は畑と山が広がる見慣れた光景であったのだが。

昼食は、福井県は鯖江市にある釜飯専門店『釜蔵』であった。本来木曜日は定休日であり、わざわざツアーである私たちのために開けていて下さったという。蟹が実に美味であった。

あとここで北陸の地酒(銘柄は失念した)というものを初めて頂いた。良く飲む土佐鶴に比べると口当たりが柔らかく甘いお酒といった印象で、甘党である私には好きな味だった。コップになみなみと注がれたそれはあまりにも多かったが。

その後、福井県立恐竜博物館へ向かった。昼食の時に頂いたお酒が回りかなり記憶が曖昧である。

化石が見つかったのが何らかの工事中だったとしてどうすれば化石と気付くのか不思議だった。

その後、宇奈月温泉にある延対寺荘に宿泊した。

この宇奈月温泉というところがまた不思議な雰囲気のある場所であった。なんというか人の動きを感じない。寂れていると一口に言ってしまうえば簡単だが、それぞれの店舗は普通に営業している。かと思えば廃墟化したホテルなりビルがちらほらと見られる。18 時頃と 22 時頃出歩いたがすれ違った人は 2 組程度。オフシーズンかとも思ったがここに人があふれかえっていてもそれはそれで違和感がありそうだった。

二日目

いよいよメインイベントである立山黒部アルペンルートおよび黒部ダムへ向かう。

標高ほぼ 0m から 2500m までを駆け上がる。道中の交通機関は全てすし詰めであつたが、絶景と言うほか無い景色が広がっていた。

ルート上で最高峰となる室堂では食事を取ったり周囲を散策したり 2 時間程度滞在した。雪を見ると無条件でテンションが上がるのは私が高知県民だからだろう。実に楽しい経験であった。



意外だったのは暖かかったこと。厚手のインナーにカッターシャツ、カーディガンにやや厚手のジーンズを装備していったが、カーディガンの出る幕はほぼ無かった。日焼けまでしていた。

2つあったロープウェイの駅から見下ろす黒部ダムは絶景であった。空気が澄み渡りすぎて距離感がつかめない。直線距離で2km程度先のダム湖畔が鮮明に見えていた。無論対岸の山々も全てである。



ダムに降り立つとこれまた壮観だった。ちっぽけに見えていたダムは巨大で、両岸に設置されたケーブルクレーンの土台ですら桁違いの大きさだった。



山肌は発破により基礎地盤を露出させたそうだが、もとよりその形であったかのような荘厳さだった。ヒストリー・ドラマ・ビジュアル・スケールを完備した素晴らしいところだった。

来た道を見上げてみると、切り立った岩山の上にはぽつんとロープウェイの駅が建っている。どうやって建造したのか想像もつかない。

ダムを一通り見学した後、トロリーバスを使用し立山連峰の長野側、扇沢を経由し、二日目の宿泊地である松本市へ向かった。松本市といえばJリーグの松本山雅くらいしか思い浮かばなかったが、県の第2都市とは思えない活気のある町だった。とはいえ来る機会はどうも無い土地であるため、どうせなら地場産品を食べたいと思い歩き回ったが、どこも満席であった。金曜の夜であることを失念していた。一緒に出かけた三名全員が和食続きで肉に飢え

ていたため、焼肉へいくこととした。メニューは普通だったのだが、付け合わせでお餅がついていた。塞翁が馬的に松本ご当地かと思ったがネギ不足で代わりに乗せているとのこと。残念ではあったが肉と一緒に食べると美味であった。

三日目

松本城、旧開智小学校を観光した。松本城は戦乱に巻き込まれたことのない城で、400年前そのままの姿だそう。城主を調べても正直ピンと来なかったが、古い建造物がそのまま残っているだけでもありがたいものである。

私がまともに城を見たのは地元である高知の高知城、熊本地震のボランティアの際に立ち寄った熊本城の2つであるが、両方とも丘城で、少し高い土地にある。特に熊本城は10mはあろうかという切り立った堀が圧巻であったが、今回訪れた松本城は周りとの標高差もなく、堀も非常に浅かった。



大丈夫なのかと思っていたが、隣接して建造されていた資料館に城下町を含めた全体模型が置いてあり、合点がいった。見ると、堀が二重三重と重なっている。堀と堀の間には建物があり、蓄えも可能なのだろう。どこからか攻めてくれば浅い堀でも時間はかかるから、その間に防備を固めて反撃すればいい。良く考えられていると感心した。

旧開智小学校は和洋折衷...ではなく擬洋風建築だそうで、洋風に寄せつつ和風が無くなりきらない味のある建物だった。



言い忘れていたが今回の社員旅行第一班は平均年齢が非常に高かった。二十代は私を含め3人程度ではなかったかと思うくらいだ。私が小学校に入った頃は学習機の天板は合板だったし、引き出しは鉄製で、果てにはFRP製になっていた。が、旧開智小学校に保存されている机は木材そのままの机で、釘すら使われていないようなものだった。私はともかくとして重役の方々の時代に使っていたようなものだそうなので、懐かしんで見ている姿が非常に新鮮であった。

観光を終えると、味噌蔵で食事を取り、帰路についた。

終わりに

今回の旅行は、超をつけても良いほどの快晴に恵まれた。立山の室堂で見た雲と言えば飛行機雲ぐらいのものである。



唯一残念だったことは、黒部ダムの慰霊碑に落石の影響で近寄れなかったことだった。

また、今回の旅行では行く先々での地場産品に心が躍った。地酒、味噌、白エビに野沢菜、ジビエ。枚挙に暇が無い。そういった意味でも楽しく、新鮮な旅行であった。

すし詰めめのロープウェイなどは正直必要以上に疲れた気がしなくも無かったが、終わってみれば心地良い疲労感となっていた。

なにより、国内で最大級の土木遺産に触れられたことは大きな収穫だったと言える。関わった人々の信念・情熱・意地が建造物からにじみ出ていた。次代に繋ぐ力を感じた。もっと頑張らねばと決意した。

本年も旅行の企画および進行に携わった親睦会役員の皆さんおよび各旅行会社の方々に感謝と敬意を表し、私のレポートとする。

立山黒部アルペンルート の旅

防災まちづくり課 松本 洋一



1. はじめに

今回の旅行は、2泊3日で福井、富山、長野の3県を訪れた。黒四ダムをはじめ、土木に携わる技術者として見所が多い有意義な旅であった。

2. 立山カルデラの砂防事業

立山駅からケーブルカーが出発するまでの空き時間に立山カルデラ砂防博物館を見学した。砂防のメッカと呼ばれるだけあって、ひととき立派な砂防事務所に隣接して博物館が設置されている。

立山カルデラは、火山活動と浸食作用で形成された日本最大規模の崩壊地形である。標高3000m級の立山連峰の裾に扇状地が幾重にも重なり、富山湾沿岸付近まで達するダイナミックな地形を見れば、大規模な土石流が永年にわたり繰り返されたことがイメージできる。

富山平野を守るための砂防事業は、明治・大正時代にも遡り、100年以上にわたり続けられている。現在の富山県の発展は、立山砂防事業のストック効果が基盤であることを実感した。



2016年に直轄砂防事業90年を迎えた立山砂防事務所



立山カルデラ砂防博物館の展示物

3. 立山黒部アルペンルート

今回の旅のメインである立山黒部アルペンルートは、天候にも恵まれ圧倒的なスケールを体感することができた。雪の大谷、室堂平、大観峰から望む黒部湖、後立山連峰の景観はどこを切り取っても絵になる。

黒部ダムについては、初日のバスでNHK番組「プロジェクトX 挑戦者たち 黒四ダム」のビデオを上映していただいた。大規模な破碎帯に遭遇した大町トンネル工事、巨大なダム本体工事等のエピソードに想いを馳せながらルートを巡った。

実際に急峻な地形を目の当たりにすると、先人の苦労は想像を絶するものであったと実感する。労働環境は過酷を極めただろう。171名もの犠牲者を出しながら工事を完遂することは現代では考えられない。命がけで困難に挑み続ける先人の気概には敵わないと考えさせられる。



雪の大谷 最高地点 16m



大観峰駅から望む後立山連峰と黒部湖の絶景

4. インバウンド効果

アルペンルートに押し寄せる観光客の8割は海外からの観光客が占めており、特に今は台湾からの観光客が多いとのことであった。このインバウンド効果が無ければ、現在の観光地は成り立たないであろう。国が掲げる観光立国実現に向けたアクション・プログラムでは、訪日外国人旅行者2000万人時代を見据えた施策を推進している。これによって平成27年度の訪日観光客は、1,974万人に達し、2020年以降は3000万人が訪れる観光立国を目指している。

観光立国を目指すにあたって、土木遺産をより一層活用することが重要と考える。多くの観光客が通過する立山駅に近接する立山カルデラ砂防博物館の観光客はまばらであった。観光業との連携を深めることで世界共通語であるSABO事業の効果をもっと広く知ってもらうことができるのではないか。土木遺産の神髄を伝えることは、海外観光客に日本をより深く知ってもらう切り口として有効であると思う。これからは「伝えること」にも重点を置いて既存の施設、人材、お金を有効に使う知恵を絞らなければならない。



トローリーバス駅構内に溢れるインバウンド観光客

5. 松本市のまちづくり

松本市は、アルプスの山並み、国宝松本城や旧開智学校校舎などの自然・歴史・文化資産を有している。これらの景観を活かした魅力あるまちづくりを目指した松本市景観計画が策定されている。計画では、建築物の高さ、色彩などの制限が定められている。

現在、旧片倉製糸紡績松本製糸工場の跡地に大規模なイオンショッピングモールが建設中である。車窓からは景観に配慮した外観を垣間見ることが出来た。他にも、100円パーキングの看板など彩度を抑えて景観に配慮した事例が見られた。



松本城天守から望む町並みと北アルプスの景観



製紙工場跡地に建設中のイオンモール

6. 信州の食文化

最終日の夜は、2軒の居酒屋をはしごして富山県と長野県の美味しい食材に出会うことができた。特に長野県は海に面していないため、川魚、昆虫、馬肉などのタンパク源や味噌などの保存食が特徴的な食文化を形成している。昆虫類の中ではイナゴが意外とイケます。他にもドジョウの串焼き、イワナのひれ酒、メの信州そばが特に美味しかった。



信州郷土料理 蜂の子、ざざむし、イナゴの佃煮

7. おわりに

出発前にはバスの行程が長いことを心配したが、車窓の景色、流暢なガイド、適度な睡眠を織り交ぜて有意義に過ごすことができた。天候にも恵まれて思い出に残る社員旅行となった。お世話になった関係者の皆様に感謝します。ありがとうございました。

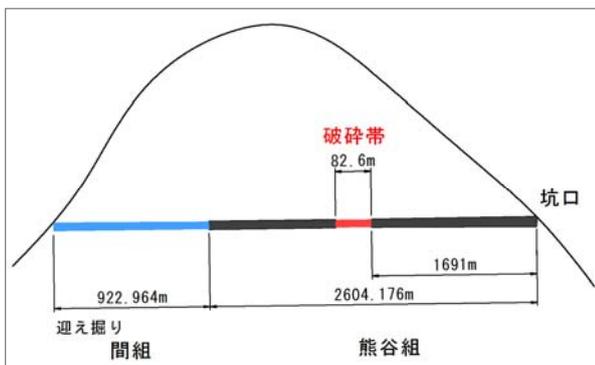
立山黒部アルペンルートの旅

防災まちづくり課 中村 和弘

1. はじめに

今年は、念願の黒部ダムを観光できることになり、大変うれしかった。

黒部ダム建設に際し、最大の難工事となった大町トンネル（関電トンネル）の破碎帯を体感することが主目的であるが、映画「黒部の太陽」を観賞してその難工事をどのように克服したかを知ることになり、是非その現場をみたいという気持ちが強かったのである。



上図は、映画「黒部の太陽」の貫通式で示された図である。

2. 黒部川流域の地形・地質

(1) 地形

黒部川流域の地形は、立山連峰と後立山連峰に囲まれた極めて狭く、かつ急峻な山岳地形で、地質年代の第三紀末以降の地殻変動により急激に隆起したのち、黒部川により激しい浸食を受け「黒部峡谷」を形成している。



図 2-1 黒部川流域の位置図



図 2-2 黒部川流域の地形

(2) 地質

黒部川流域の地質は、図 2-3 に示されるように、主に古生代～中生代の古期花崗閃緑岩類と、新第三紀の新期花崗閃緑岩類から形成されている。

映画では、「フォッサマグナ」の存在が懸念されていたが、図 2-1 に示すように、大町トンネルよりかなり東側を南北に走っている。

花崗閃緑岩類は、河床部付近では切り立った急崖を形成し、堅硬な岩盤を呈しているが、高標高部ではマサ状に風化しており、脆弱となっている。

大町トンネル部では、堅硬な花崗閃緑岩類よりなっており、全断面掘削機により施工されている。

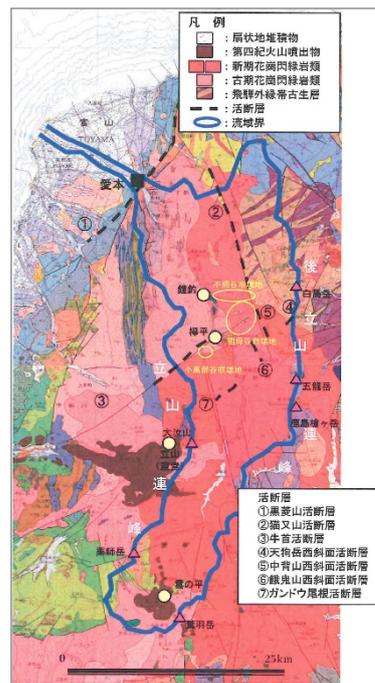


図 2-3 黒部川流域の地質

【出典：地質調査所発行 地質図、活断層については宇奈月ダム工事誌参照】

3.大町トンネル（関電トンネル）

- 1956年(S31年)8月大町トンネル掘削開始。
- 全断面掘削機など最新鋭の材料を次々と導入し、工事は順調に進んだ。
- 1957年(S32年)5月、入口から1,691mの地点で毎秒660ℓもの地下水と大量の土砂が噴き出した。これは、破碎帯と呼ばれる、岩盤の中で岩が細かく割れ、地下水を溜めこんだ軟弱な地層のことで、掘削作業は暗礁に乗り上げた。破碎帯は、82.6mもの幅を有していたため、通常なら10日で抜ける距離に7ヶ月を要したのである。

破碎帯の幅は、弾性波探査の低速度帯の分布で推定できるが、私の経験では、このような大破碎帯は見たことがない。高知・愛媛・徳島県のトンネル、ダム、地すべり地の弾性波探査を相当数実施してきたが、せいぜい20m位までであった。

- 破碎帯突破の対策は、土砂崩壊と湧水をくい止めるため、コンクリートを注入して固めながら掘ろうとしたが、大量の水が入ってくるので無理だった。そこでまず水を他の方向へ逃がそうと10本の水抜き用のトンネルを掘りその先端から大口径水抜きボーリングを実施した。

徐々に湧水が減少していったなかで、薬液を注入した上でセメントを流し込み、岩盤を補強しながら掘り進め、7ヶ月をかけてようやく破碎帯を突破した。

1957年(S32年)12月2日PM2:35のことである。

水抜き用パイロットトンネル

10本 ΣL=500m

大口径水抜きボーリング

124本 ΣL=2,900m

薬液注入 13万ℓ

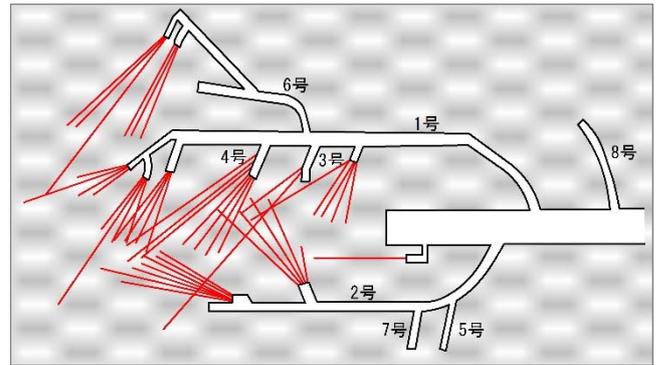


図 3-1 破碎帯の突破対策工見取図（「黒部の太陽」より）

- 1958年(S33年)5月 大町トンネル開通。
大町トンネルの開通により「黒部ダム」と「黒部川第四発電所」の建設が一挙に本格化し、急ピッチで進められ、1963年(S38年)6月5日「くろよん」は竣工した。7年の歳月と513億円の工費、延べ1千万人の人手、171名の尊い犠牲により完成したのである。

4.あしがき

7ヶ月を要した破碎帯(82.6m)を、トロリーバスではわずか10秒位で通過する。先人の偉大さを改めてかみしめたものである。

破碎帯の湧水を原料にしたご当地サイダー「ハサイダー」が黒部ダム販売店で販売されていた。これが美味。また、「黒部の破碎帯」というお菓子もある。これは試食したのみ。

その他、立山連峰、後立山連峰の美しい眺望も忘れることはできない。



以上

社員旅行（第一班）に参加して

設計部防災まちづくり課 横山 成郎

1. はじめに

5月18日（木）～20日（土）の2泊3日の立山黒部アルペンルートの旅に参加した。

私は、立山の自然と融合した土木インフラが観光資源として永続的に地域発展に貢献していること、松本城の歴史と北アルプスの自然が観光資源として都市と融合し風格を感ずるまちづくりに貢献していること、の2点に関して、ストック効果を高める工夫や自然・歴史等資源の有効活用は高知県の発展のヒントにもなると思い、少ない時間で垣間見た内容と感想を以下に記述する。

2. 世界遺産も目指した土木インフラ

立山駅からケーブルカーに乗るまでの少ない待ち時間に訪れた立山カルデラ砂防博物館で、下の写真のように、まず砂防施設が観光資源として地域発展に寄与していることに驚いた。時間がなく重要な研修の場であったことが残念であった。

最大の土木インフラが下の写真の黒部ダムである。事故が直接死に繋がる危険と直面しながら、使命感と誇りを持ち続け困難に立ち向かった技術者の姿が想像された。



立山砂防について



展望台からの黒部ダム

3. 国宝松本城を拝する松本市のまちづくり

松本城に訪れると立て看板があり、「天守の一部は震度6強から7の大地震時の耐震性能が不足していることが判明した。松本市はただちに耐震対策や避難誘導計画の策定等に着手いたしましたが、工事の完了までには数年間の期間が必要となる状況です」というメッセージ、熊本城を思い出し、まずは早期の完了を願うものであった。



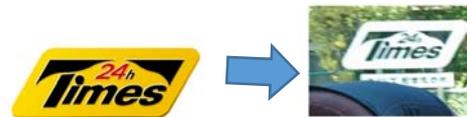
漆が映える国宝松本城

松本城の最上階からまちなみを望むと、下の写真のように緑の向こうに一定高さが制限されたビル群が整然と建ちならび、モノトーン感の上に空の青さが引き立っていた。



松本城から駅前方向を望む

実際バス移動の際にまちなかを注視すると、下の写真のようにコインパーキングの広告の色調が従来黄色地に黒色や赤色の文字であったのが、白色地に黒色の文字に変更されていた。



景観に配慮された広告

旅行後、松本市のHPを見ると景観計画で、恵まれた自然・歴史・文化遺産を活かしたふさわしい風格ある景観づくりに努めている、ということが分かり、我が高知市においても景観計画があるが、より厳しい制限も必要ではないかと感じた。

4. おわりに

25年ぐらい前の夏立山に訪れた時は、雨で濃霧の上寒かったことを覚えている。この3日間は雲一つない快晴に恵まれ、自然と土木インフラの素晴らしさを満喫した思い出になる旅行であった。

立山黒部

アルペンルートの旅

防災まちづくり課 土居徹平

出発

今回、初めて社員旅行に参加させて頂いた。行き先が今まで行ったことがない場所ということで、期待に胸を膨らませ5月18日高知龍馬空港から旅立った。

福井県立恐竜博物館 ～宇奈月温泉

伊丹空港に降り立ち最初の目的地、福井に向けてバスで出発した。途中、釜めし専門店の釜蔵で昼食をとり、一路、福井県立恐竜博物館に向かう。

博物館のある福井県勝山市には、「**手取層群**」という中生代ジュラ紀中期から白亜紀前期にかけての地層があり、5種の新種の恐竜などが発見されている。

館内には、44体もの恐竜骨格や発掘された「**フクイサウルス**」と「**フクイラプトル**」の復元骨格などがあり、大迫力であった。



館内の展示を観覧したのち、最初の宿泊地、宇奈月温泉に向かった。

宇奈月温泉の源泉は、黒部川沿い約7km上流の黒部溪谷にあり、江戸時代初期に発見されたといわれている。その後、「**高峰譲吉博士**」が温泉開発を計画し、「**土木技師山田胖(ゆたか)氏**」が溪谷の急斜面を縫って木管を施設する難工事の末に引湯を成功させ、宇奈月温泉が開湯されたということだ。宇奈月で温泉を楽しむのも、先人の功績のおかげだと知り非常に感銘を受けた。



宇奈月温泉駅のホームにある足湯

立山～黒部ダム

宇奈月に別れを告げ、いよいよ黒部に向け北アルプスを登る。まず、バス・ケーブルカー・バスと乗り継いで、少しずつ室堂に近づいていった。

最初に待ち構えているのは「**雪の大谷**」である。室堂の近くにある大谷は、吹きだまりになっているため特に積雪が多く、その深さは20mを超えることもあるそうだ。



バスに迫る雪の大谷

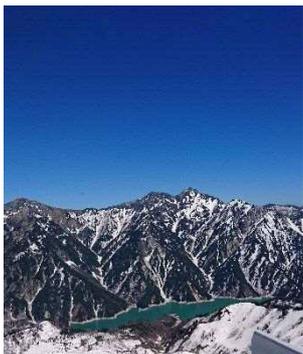
雪に埋もれた道を GPS で確認しながら除雪車で掘り進んで生まれる絶景が雪の大谷である。

室堂での滞在時間で、周辺に生息する特別天然記念物の「ライチョウ」を見ることができなかったことが心残りだ。

室堂を後にし、トロリーバス・ロープウェイ・ケーブルカーと乗り継ぎ、黒部ダムを目指した。

黒部ダムを見てやはりその大きさに圧倒され

た。到達するだけで大変な場所に、よくこのような巨大な構造物があると驚かされる。堤高 186m は日本一である。



大観峰から見る黒部湖



知られており、完成の裏で犠牲となった殉職者 171 名がいることを忘れてはいけない。

ダム建設の目的は関西圏の電力不足解消であり、日本の高度経済成長期を支えたといっても過言ではない。また、大町トンネル工事での破碎帯遭遇など難工事で



殉職者慰霊碑

松本城～旧開智学校



松本城は、戦国時代の永正年間に造られた深志城が始まりで、江戸時代またはそれ以前に建設され現代まで保存されている、現存天守 12 城の内の 1 城であり、国宝に指定されている国宝 5 城の内の 1 城である。

特徴としては、天守の建物に「月見櫓」が接続しており、このような造りは松本城だけである。北アルプスの山々をバックに、堀に姿を写す天守はたいへん美しいと思う。

その後、近くにある旧開智学校を見学し、石井味噌で昼食をとり帰途に就いた。



石井味噌での昼食

帰着して

やはり、旅行は現地に行って体感することが大切だと思う。ガイドブックや、インターネットのホームページを見るだけでは分からないことがある。

今回の旅行は、全日程を通して快晴で、天候に恵まれ運がよかったと思う。この素晴らしい旅行に参加することができ、会社の厚意に感謝をしたい。

平成29年度社員旅行 ～立山黒部アルペンルート～

道路交通課 濱田拓也



まえがき

平成29年5月18日から2泊3日で社員旅行に参加した。北陸・甲信地方へ足を運ぶのは初めてで、どんな旅行になるかも想像できないまま出発した。

1日目 高知から黒部宇奈月温泉へ

高知龍馬空港7時45分発のANA1600便で伊丹空港へ。



高知～伊丹間は40分程度の移動であつという間。飛行機をおり松山組の3名と合流するとすぐにバスに乗り、昼食と恐竜博物館を見学する福井県に向かった。

福井まではバスで約2時間半の移動である。移動中はバスガイドさんの勧めで、テレビ番組「プロジェクトX：シリーズ黒四ダム・秘境へのトンネル地底の戦士

たち」を流してくれた。この番組は黒四ダムへ続く関電トンネルの建設当時を描いた番組で、当時のトンネル建設がいかに難工事であったかを感じさせてくれる番組であった。ビデオのおかげで移動時間はあつという間に過ぎ、気がつけば黒部ダムを早く見たいという気持ちになっていた。

昼食は福井県鯖江市の釜飯専門店釜蔵で、かに釜飯をご馳走になった。

当日は定休日であったが、我々のために店を開けてくれたようで、店内は貸し切り。ゆっくりと昼食をとることができた。



昼食が終わると、今度は福井県立恐竜博物館に移動し、1時間ほど館内を見学。

館内は4,500m²という広大な展示室に、恐竜骨格をはじめとする様々な標本や、大型ジオラマが展示されており、なかなかの迫力であった。



恐竜博物館の見学を終えると、再びバスに乗り富山県黒部峡谷宇奈月温泉へ。

ここから約 3 時間の移動。タイトなスケジュールである。

移動中、今度は「プロジェクト X：黒四ダム・絶壁に立つ巨大ダム・1 千万人の激闘」を流してくれた。こちら番組は、ダム本体建設当時のことを描いた番組で、ダム本体の工事がいかに大変で、当時施工に関わった人々がいかにプロフェッショナルであったかが伝わってきた。

バス乗ること 3 時間。ようやく初日の宿泊先である宇奈月温泉に到着。時計を見ると 17 時過ぎである。7 時 45 分に高知を出て約 9 時間。長い移動であった。

1 時間後に夕食ということであったため、少し疲れていたが、旅館周辺を少し歩いてから温泉に入り、夕食をとることにした。

今回の旅行では、乗ることができなかったが、黒部峡谷鉄道のトロッコ列車には是非のってみたいものである。



夕食は旅館での宴会。おいしい料理、お酒を頂きながら、カラオケ大会をするなど、みんなで騒ぎながら 2 次会へ。大騒ぎをして、初日を終えた。

楽しい時間を過ごすことができた。



2 日目 いざ黒部ダムへ

2 日目は 8 時に旅館を出発。バスで 1 時間ほど移動し、立山黒部アルペンルートへの入り口である立山駅へ到着。ダムまでの長い道のりの始まりである。

立山からまずケーブルカーで美女平へ。標高 475m の立山駅から 977m の美女平まで約 7 分で駆け上がる。ここに来て気づいたが、温泉ではあまり人に会わなかったが、ここはやたら人が多い。聞けばほとんどが台湾人とのことである。



美女平からバスに乗り換えて室堂へ。標高差 1500m を約 50 分かけて移動する。1500m もの標高差の移動となると、みるみる景色が変わっていくのがわかる。室堂につくころには、道路の両脇に最大 16m もの雪の壁ができていた。圧巻である。高知では絶対に見ることのできない景色に感動した。



室堂を後にし、今度はトロリーバスで大観峰へ。時間は約 10 分。

トロリーバスは電気で走るバスで、路面電車をバスにしたような感じ。狭いトンネルを結構なスピードで走るバスをどうやって運転しているのか。不思議な感じがした。

室堂に着くとすぐに昼食。前日に飲み過ぎて二日酔いの人、乗り物酔いの人、急激な高低差についていけない人など、あまり元気な人がいない印象の昼食であった。まだ目的地の黒四ダムに着いていないのに。



トロリーバスを降りると、今度はロープウェイで 500m ほど下って黒部平へ。上からの景色が凄かった。

昼食を終えると、約 1 時間の自由時間。

バスから見た雪の壁を間近で見たくなり、歩いて見に行った。



ロープウェイを下りると、今度はケーブルカーで約 400m 下り黒部湖へ。ようやく目的地の黒部ダムに着いた。



室堂から乗り物に乗った時間は20分程度であったが、乗り換えの待ち時間と人が多く常に満員状態での乗り物のおかげで結構ヘトヘトになった。

黒部ダムに着くと、1時間ほどの自由時間があつた。

ビデオで見たとおり相当な規模のダムで、人が作ったものとは思えないほどの

建造物である。

ダム建設では 171 名の方が命を落としており、ダム湖の横に慰霊碑が建てられているが、工事中で慰霊碑を見ることはできなかった。

多くの犠牲を出しながら完成したダムを見て、当時の方々の必死さと絶対に作るという強い気持ちがすごく伝わってくる気がした。

本当にすごい迫力であった。

ただ、ダムの貯水量が少なかったため、放水をしていなかったのは残念であった。次に来る機会があれば是非とも見てみたいものである。



黒部ダムを後にし、トロリーバスで関電トンネルを通過し扇沢へ。このトンネルもビデオで見たトンネルで、80mの大破砕帯を掘るのに7ヶ月の時間を要したとのことであった。

扇沢からは貸し切りバスで2日目の宿泊先である松本市へ移動。昼食をとってからずっと立ったままであったため、バスにゆっくり座れたのが嬉しかった。疲れて寝ている人が多かったが、実は扇沢から下る道中の景色が、今まで見た景色と違い非常にきれいな景色。ずっとバスの外を眺めていた。写真に残せていないのが残念だ。

ホテルに着いたら少し休んだあと、数名で居酒屋に行き、酒を飲みながら信州そばと山賊焼きなどを食べた。会話も弾み楽しく飲んでいたが、昼の移動で皆疲れ切っており、10時過ぎには酒も食事も会話も少なくなってきたため、もう少し飲みたかったが早めにホテルに帰って休むことにした。



最終日 松本市から高知へ

最終日は松本城、旧開智学校を見学し、昼食をとった後で高知へ帰る予定。

前日ゆっくり寝たこともありすっきりとした朝を迎えることができたが、また行きと同じ長い道のりで高知へ帰ることを思うと少し気が重い。

バスに乗り松本城へ。松本城は戦国時代に立てられた五重六階の城で、天守が国宝に指定されている。天守としては日本最古とのことである。

北アルプスを背景にお堀に姿を写す天守は本当に素晴らしく、他の城では見ることのできない絶景であった。



松本城見学を終え、旧開智学校へ。

旧開智学校は明治時代に学制による小学校として開校。最も古い小学校として国の重要文化財に指定されているとのこと。

木造の建物が、昔のまま残されている。私が小学校の低学年の頃を思い出しながら見学した。



昼食を終えると、約 5 時間のバス移動と飛行機で高知へ。松山便との兼ね合いもあり、バス移動は休憩時間があまりとれないとのことである。初日は黒部ダムのビデオを見ながらの移動で時間をあまり感じなかったが、帰りはそれもなく、つらいバス移動であった。

昼過ぎに松本市を出て、高知に到着したのは 20 時過ぎ。本当に長い道のりであった。



旧開智学校の見学を終えると、石井味噌で早めの昼食。食事の準備ができるまで、味噌の造り方などを店の方が説明してくれた。昼食は、豚汁、焼きおにぎり、みそ田楽等のみそ料理。お腹は減ってなかったが、おいしく頂いた。



あとがき

社員旅行のアンケートで京都を希望した私は、正直黒部ダム、北陸・甲信地方への旅行がどんなものかよくわかっていなかった。

しかし、大迫力のダム、きれいな景色を見ることができ非常に満足する旅行となった。欲をいえばもう一泊して長野県をもう少し見て回りたいかった。

次に来る機会があれば時間にゆとりをもって、観光を楽しみたい。

最後に、社員旅行につれ行って頂いた会社と、旅行の段取りをして頂いた親睦会と旅行会社の方々に感謝したい。



社員旅行

…2017年 立山黒部アルペンルート…

道路交通課 齋藤啓太

まえがき

平成29年5月18日から2泊3日で社員旅行に参加した。今回で3度目の社員旅行であり、国内旅行は初参加であった。はやる気持ちを抑えながら、初めての地 信州へ出発した。

初日：高知～黒部宇奈月温泉

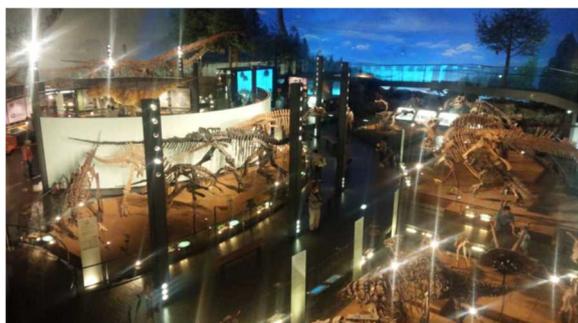
高知龍馬空港から伊丹空港に到着後、昼食と恐竜博物館を見学する福井県に向かった。旅行期間中は快晴となることが予想されたため、Tシャツと短パンの服装でのりこんだが、少し肌寒さを感じた。

昼食は福井県鯖江市の釜飯専門店釜蔵で、おいしく釜飯をご馳走になった。真っ昼間から仲間と共に旨い食事とビールを堪能できたことは幸せであった。



昼食が終わると、福井県立恐竜博物館に移動。本博物館は、世界三大恐竜博物館にあげられている。広大な展示室に、恐竜骨格や様々な標本、大型ジオラマが展示されており、期待した以上であった。

恐竜好きの息子が見たら、興奮する姿を目に浮かべながら見学した。



恐竜博物館の見学を終えると、再びバス移動。バスに乗ること3時間、ようやく初日の宿泊先である宇奈月温泉に到着。

夕食までの休憩時間は、部屋でゆっくり休憩した。部屋からは黒部川を望めた。雪解け水で冷たそうであったが、初夏の頃には釣りが楽しめそうであった。



夕食は旅館での宴会。おいしい料理、お酒をご馳走になった。名物であるホタルイカも堪能。

宴会後は、一室に数人が集まり、お酒を飲みながら談話や麻雀をした。楽しい時間を過ごし、社員同士、仲の良いことを改めて実感した。



2日目：黒部宇奈月温泉～松本市

昨夜麻雀に精を出し過ぎたせいで、起床すると出発時間の30分前。楽しみにしていた朝食を頂くことができなかった。残念。

旅館をあとにバスで1時間ほど移動し立山駅に到着。

外国人が多く、ここは外国かと錯覚するほど外国語が飛び交っていた。台湾人が最も多いとのことである。

立山からケーブルカーとバスを乗り継ぎ室堂へ。最大16mもの雪の壁のある景色は、高知では絶対に見ることができない。凄い景色であった。



自由時間を終えると、トロリーバス、ロープウェイ、ケーブルカーを乗り継ぎ黒部湖へ。ようやく目的地の黒部ダムに着いた。

想像していた以上に大きなダムで、あまりの大きさに圧倒された。ただ、観覧放水期間ではなかったため、放水をしていなかったのは残念であった。

ダム湖のすぐ横にはダム建設で命を落とした171名の方の慰霊碑があり、慰霊碑前で手を合わせたかったが、残念ながら落雪・法面対策工事中であったため、手を合わすことはできなかった。



黒部ダムを見学後、貸し切りバスで2日目の宿泊先である松本市へ移動。

ホテルに着いたら少し休んで居酒屋に行き、酒を飲みながら信州そばとB級グルメの山賊焼きなどを食べた。昼の移動の疲れもあり10時過ぎにはホテルに帰ったが、無性にラーメンを食べたくなったため、12時頃、一人で再び外に繰り出した。翌週にある健康診断が頭をよぎったが、今しかできないと決意し、暴飲暴食に走った。大満足。



最終日：松本市～高知

いよいよ最終日。バスに乗りまずは松本城へ。高知城しか知らない私にとって、北アルプスの白い山々を背景にした松本城の姿に感動した。



松本城見学を終えると、次は旧開智学校へ。

旧開智学校は明治時代に学制による小学校として開校。最も古い小学校として国の重要文化財に指定されている。

校舎内には、当時の写真や学生が描いた絵画が展示されていた。明治20年頃は生徒数2500人程度であり、松本城前で開催した運動会の状況写真は圧巻であった。



旧開智学校の見学を終え、石井味噌で昼食。食事前に味噌の造り方などの説明を受けた。

昼食は、味噌屋ということだけあり、豚汁、焼きおにぎりなどのみそ料理がメイン。旅行最後となる食事を堪能した。おいしい味噌が体中に染み渡った。やはり日本人にとって、味噌はかけがえのないものである。



昼食を終えると、初日と同様に長いバス移動と飛行機で高知へ。高知に到着したのは20時過ぎであった。

あしがき

三日間を振り返ると、終日快晴で過ごしやすかった。知らない土地、見たことのない建造物などを直接目で見ることで、先人の方々の情熱を感じ、想像以上に身のある旅行であった。欲を言えばもう一泊して、長野県の風土をもう少し感じたかった。

今回の旅行を通して、より一層の社員間のコミュニケーションが図れたと感じた。



立山黒部 アルペンルートの旅

道路交通課 阿部一輝



1. はじめに

今回の旅行は私にとって初めての社員旅行です。1 班のメンバーは、普段話すことのない方ばかりで少し不安もありましたが、思いっきり楽しもうと決め出発しました。

2. 恐竜博物館

初日、私たちがまず向かったのは福井県にある恐竜博物館です。ティラノサウルスの精巧なロボットや 44 体もの恐竜の全身骨格の標本、他にも化石や鉱物が展示されていました。あまりに精巧だったため、実際に恐竜のいた時代にタイムスリップした気分になりました。



カマラサウルスの頭部

特にここで楽しみにしていたのがカマラサウルスの標本です。通常はレプリカ標本が一般的ですが、ここの標本は全体の 95%が実物の化石で組み上げられたものです。大変貴重なものを見ることができてよかったです。



カマラサウルス産状

3. 雪の大谷

二日目はケーブルカー、トロリーバス、ロープウェイなど、今まであまり利用したことが無い乗り物での移動に気分が高揚しました。

標高 2,450m 地点の室堂にたどりつくると、一面雪景色、高知県では見ることができない景色に心躍りました。



室堂にある雪の大谷

4. 黒部ダム

雪景色を堪能したあとは、黒部ダムを見に行きました。ダムの高さは 186m、日本一高いダムといわれるだけあり、その迫力は凄まじいものでした。高すぎて下を見た時素直に怖かったです。

現在はまだ放水をする時期ではないため、ダムから勢いよく放水する姿を見ることができませんでしたが、天候がよく、ダム背後の黒部湖や美しい山々を見ることができて良かったです。

でもやっぱりダムの放水はみたかった...



黒部湖とそれを覗く山々

5. 松本城

旅行最終日、まず松本城に行きました。

松本城は天守が国宝指定されている5城の一つです。



松本城

城内に入ってみると、火縄銃が多数展示されており、銃の発展の歴史についても説明されていました。一般的な火縄銃の他に、短刀に見せかけた仕込み銃や鉤爪を射出する変わった銃も展示されており、ただ打ち合うだけでなく、この時代から様々な用途に利用されていたのだなと感じました。



展示されていた火縄銃

6. 旧開智学校

松本城の次は旧開智学校に行きました。

あまり見ることのない校舎の構造、和風と洋風が混ざりあった面白い空間でした。

教室では1班のみんなで机に座りミニホームルームのようなものを行い、写真をとりました。なかなか面白い絵になりました。



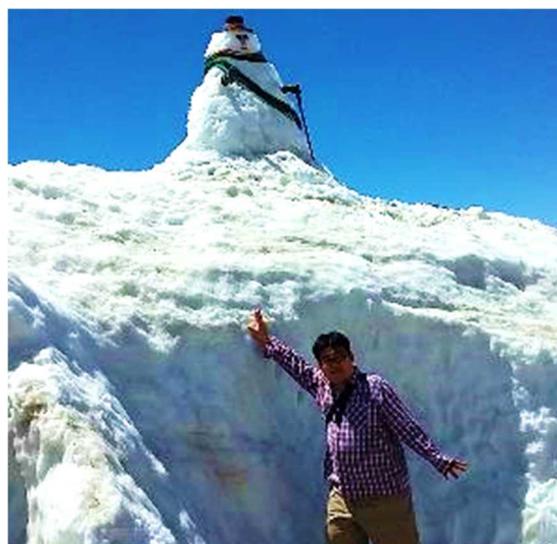
開智学校でのミニホームルーム

7. おわりに

旅行を終えてみると、出発前の不安はお構いなしに旅行を楽しむことができました。

特に黒部ダムの迫力はとても印象に残っており、放水している時期にもう一度見に行きたいと思いました。

今回の旅行に連れて行って頂きました会社と親睦会と旅行会社の皆様、本当にありがとうございました。



社員旅行レポート

橋梁構造課 矢田 康久

1. はじめに

本年度の社員旅行は、立山黒部アルペンルートということで、私にとっては富山県や長野県に行くことすら初めての経験でした。黒部ダムは、戦後の日本経済を支えた大プロジェクトであり、世界的にも大規模なダムです。土木技術者の一人としては、一度は訪れてみたいという思いがありました。

2. 旅程

5月18日(木)伊丹空港～昼食(福井県鯖江市)～福井県立恐竜博物館～宇奈月温泉

5月19日(金)立山駅～室堂～黒部ダム～扇沢～松本

5月20日(土)松本城～旧開智学校～伊丹空港

3. 報告

【5月18日】

高知空港にAM7:00集合し、伊丹からバスで昼食のため福井県鯖江市に着いたのは正午前でした。空路、陸路と乗り継ぎ長時間を要しましたが、雲一つない快晴で、気温や湿度も丁度良く絶好の旅行日和となりました。鯖江市はメガネフレームの国内生産シェアが96%を占める福井県において、その中心を担っているそうです。昼食後、お酒も入ってウトウトしていると、バスで半時間程度経過した先に、宿泊先を除けば本日唯一の観光地である福井県恐竜博物館に到着しました。

福井県は恐竜化石の産地であるようですが、化石が発見される地層の条件は、川や湖に溜まった地層であり、地表面に露出してい

ることだそうです。高知県では佐川町が有名で、地質館もありますし、化石発掘体験ツアーなんかもやっているようです。ただし発掘されるのは貝やアンモナイトで恐竜とはいかないようです。

PM:17:30頃、宿泊先の宇奈月温泉に到着しました。伊丹から8時間超、麓まできた達成感がありましたが、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅があるのを知って、バスで揺られた時間が少しもったいなかったなと思いました。しかしながら、バスガイドさんによる歴史や文化の説明、車窓からの風景、プロジェクトX(黒部ダム前編、後編)を余すことなくビデオ放映して頂くなど、バスならではの道程を楽しむことが出来ました。

【5月19日】

この日も晴天で、朝方までビールを飲みながら麻雀していた割には清々しく黒部に向かうこととなりました。道中、所々に雪が残っている植林を抜けた先には鮮やかなアルペンの山嶺が現れました。高知では真冬でも雪化粧した山を見ることはほとんどないため、とても素晴らしいなと思いました。有名な「雪の大谷」では、綺麗云々よりも崩れる危険性ってどの程度なのかなと土木の目線で考えてしまいます。

アルペンルートでは、海外の観光客の多さに驚きました。ツアーガイドさんによれば、海外と日本の観光客の割合が8:2で、ほとんどが台湾からだそうです。一昔前までは海外の観光地といえば日本人ばかりだったのに今は何処に行っても他のアジア勢に圧倒されます。

黒部ダムに到着したのは、夕暮れ前でした。アーチ式コンクリートダム形式であり、鮮やかな曲線と雄大さを兼ねていました。私の実家は本山町であるため、小さい頃から四国の水瓶である早明浦ダムには慣れ親しんできました。ダムの幅(堤頂長)は、それほど変わらないのですが、186mにもなる高さや貯水量は黒部ダムの方が2倍程大きいようです。また、7年の工事期間で死者が171人にも及んでおり、命がけの難工事であったということです。

【5月20日】

本年度の社員旅行も最終日を迎えました。松本市は、標高が600m近くあり山脈の景色がとても綺麗でした。最終日の観光地は松本城と旧開智学校でした。松本城の天守は国宝指定されている5城のうちの一つということです。長野のお城といえども真田氏の上田城のイメージがありますが、松本城も戦国時代には深志城と呼ばれて武田氏や織田氏などが治めており、少々歴史好きな私にとっては良い勉強になりました。どちらかというと上田城に行きたかったのですが、少し遠かったようです。

4. おわりに

社員旅行といえば、日頃話す機会が少ない社員の方々と交流を深めたり、訪れた土地の食、文化、歴史を経験できることが醍醐味だと思います。今回の旅行では天気にも恵まれ、事故もなくとても快適に過ごすことが出来ました。毎年のことではありますが、旅行の段取りなどを実行して頂いている親睦会の皆様に感謝致します。また、創立55周年には大きな計画（海外旅行）も立てられる予定と聞いておりますので楽しみにしています。

—以上—

平成 29 年度社員旅行

橋梁構造課 兵頭 学

1. はじめに

今年度の社員旅行は、黒部アルペンルートの旅である。社員の希望者が2班に分かれて参加する。私は5月18(木)~5月20(土)の日程で第1班として参加した。

2. 旅程

1日目は高知を出発して富山の恐竜博物館に立ち寄りながら黒部まで移動し、温泉旅館に宿泊。2日に立山黒部アルペンルートを通して黒部ダムを見学し、長野県側の松本市内のホテルに宿泊。3日目は松本市内を観光し高知へ戻るといった旅程である。



3. 1日目

初日は高知龍馬空港から伊丹空港へ移動し、ここからは観光バスで黒部の温泉旅館まで約5時間の移動である。

道中、今回の旅行のメインである黒部ダムの予習としてNHKのプロジェクトXを鑑賞した。さすがに人気番組だけあって、黒部ダム建設までの苦労がドラマティックに描かれていた。コンサルの人間としては、もっと設計

側の苦労話も盛り込まれていると良かったのにといい思いはあったが、とても興味深い内容でバスの長旅を退屈せずに過ごすことができた。

この日の昼食は、福井の釜飯を堪能し、その後同じ福井県内にある恐竜博物館を訪れた。福井県は恐竜発掘のメッカらしく世界三大恐竜博物館に数えられるらしい。展示されている全身骨格標本の数はかなりのもので1時間の滞在では物足りないと感じるほど楽しむことができた。リアルな外観で動く恐竜模型もあり子供から大人まで楽しめる施設になっていると思う。

夜は黒部の宇奈月温泉に宿泊した。この日の夕食は、1班全員での宴会である。北陸の料理とお酒を頂きながら、カラオケなどもあり大いに盛り上がった。宴会の後は、温泉で1日の疲れをゆっくりと落とし、部屋で麻雀を楽しんだり夜遅くまで飲み明かし、社員同士の交流を深めることができた。



昼食の釜飯 (釜蔵さん)



全身骨格標本 (福井の名前が付いたフクイサウルス)

4. 2日目

旅行2日目は、いよいよ立山黒部アルペンルートの旅である。立山黒部アルペンルートは、北アルプスの富山県側と長野県側を山道のほかにロープウェイやトロリーバスなどで越える山岳ルートである。途中6回の乗り継ぎを経て山を越える。

山越えの道中は一面が雪景色で、雲一つない晴天にも恵まれたおかげで、雪解け前の北アルプスの山々を存分に楽しむことができた。思い返して見ると雪山を訪れるのはこれがはじめてのことだ。晴れた日の雪山は美しく穏やかだが、これだけの雪が積もっている最中の山はとて怖い場所なんだろうと思う。

昼食は、観光スポットになっている雪の大谷がある場所で食べた。昼食会場のある場所はルートの中でも最も雪が深く積もる場所だそうで、少し雪解けが進んだこの日でも16mの積雪を見ることができた。この道路は、道も見えない一面の雪の中をGPSを頼りに重機で少しずつ切り開くのだそう。昔は雪よりも高くなるようにあらかじめ道路脇にポールを立てて道路の位置を確認していたようで、今でも折れたポールが転々と残っている。これも立派なi-Constructionの恩恵だ。

その後、全長1700m、標高500mを1スパンで渡るダイナミックなロープウェイにも乗りながら黒部ダムへ向かった。黒部ダムは、高さ186m、長さが492mの巨大ダムでダムの高さは竣工後50余年が経過した今も日本一だ。これだけの奥地でのダム建設ということで、その苦労は映画やバスで見たプロジェクトXの特集でも知られるところだが、171名もの死者を出している。

この日の夜は松本市内のホテルで宿泊し食事自由であったため、数人でホテル近くの居酒屋を訪れ馬肉や信州そばなどの地元料理を食べた。

旅先でいつも思うのは、高知の食べ物のおいしさである。各地のご飯もちろんおいしいのだが、高知ほどハズレに出会わない場所も珍しいのではないかと思う。適当に店を選

んでもおいしい食事とお酒を楽しめるというのは本当に幸せなことだと思う。



雪の大谷（最高地点）



雄大な立山連峰



黒部ダム

5. 3日目

最終日となる3日目は、松本城と旧開智学校を訪れた。松本城は国宝にも指定されており、戦火を免れ建造当時の姿がそのまま保存されている。5重6階の天守閣は見た目にも迫力があって、雪化粧の穂高連峰を背景にするととても美しかった。

旧開智学校は、明治時代に建造された擬洋風建築の建物が有名な学校で、現在も観光用に保存されている。「擬」となっているのは、構造自体は伝統的な木造建築の技術でありながら、できるだけ洋風建築の外観を取り入れるように工夫された建築だからである。言ってしまうと、ハリボテの感があるのだが、文明開化の時代に少しでも西洋に近づこうと背伸びをしていた当時の日本の空気を感じることができて面白い。

旅の最後に信州味噌の味噌蔵で昼食を食べて帰途についた。この昼食は、今回の旅行中で一番おいしいご飯であった。



松本城の景観



旧開智学校の外観と校舎内の様子



味噌蔵の昼食（焼き肉と豚汁が美味）

ところで、松本市は人口が24万人程で高知市よりも少し規模が小さい程度の街であるが、郊外に巨大なイオンモールが建設されていた。巨大なショッピングモールができると駅周辺の中心市街の購買力が失われてしまう可能性が高く、松本市出身のバスガイドさんも心配していた。高知でも同じような状況にあるが、ひろめ市場や日曜市などは街の活気を失わないための成功事例だと思うので参考になるのではないかと思った。

5. おわりに

今年度の社員旅行は以前から旅行してみたかった北陸の旅であった。2泊3日の旅で黒部ダムを訪れるために移動時間が長く、思っていたよりもたくさんの場所を巡ることができなかったが、雄大な自然を感じることができる良い旅であった。個人的な旅では、なかなか選択しない場所であるため社員旅行でこういった場所に來られるのはありがたいことである。次回北陸を訪れる時は、21世紀美術館のある金沢を旅してみたい。

最後になったが、親睦会の山本会長には繁忙期のとても忙しい中を社内の段取りや旅行会社との調整などで大変なお苦勞をおかけした。おかげ様で何事もなく1班、2班とも無事に旅行を終えることができた。この場をお借りして心からの感謝を申し上げる。

以上

平成 29 年度社員旅行レポート

橋梁調査課 石川 幸作

1. はじめに

平成 29 年 5 月 18 日～20 日の 3 日間、社員旅行に参加した。今年度の旅行先は、事前アンケートの結果により決定した、福井県～富山県～長野県を巡る「立山黒部アルペンルートの旅 3 日」であった。

2. 5 月 18 日 (木)

高知龍馬空港～伊丹空港まで飛行機で移動した後、貸切バスに乗り換えた。

道中、釜めし専門店である「釜蔵」にて昼食をとり、初日の見学場所である福井県立恐竜博物館に向かった。福井県立恐竜博物館は、福井県勝山市にある恐竜を主たるテーマとした自然史博物館である。恐竜博物館の近辺には、恐竜をモチーフにした、オブジェ、公園などがたくさん見受けられた。

館内には、実際の恐竜の化石の他、精巧なつくりでリアルな動きをする巨大な恐竜の模型、恐竜の実物大ジオラマが展示されており、その迫力に圧倒された。その他にも、地球の歴史を語るたくさんの地質資料など、膨大な展示物があり、時間内に全てを見て廻ることができず残念であった。



恐竜博物館館内の様子

初日の宿泊施設は、宇奈月温泉：延対寺荘（富山県黒部市）である。宇奈月温泉は富山県最大規模の温泉地であり、多くの旅館や商店が立ち並んでいる。この日は、平日ということもあり、温泉街は閑散としていたが、非常に趣のある町並みが広がっていた。

夜は旅館内の宴会で第一班メンバーとの親睦を深め、温泉に浸かりこの日の疲れをとった。

3. 5 月 19 日 (金)

この日は、今回の旅行におけるメインイベント、立山黒部アルペンルートの見学である。晴天にも恵まれて、絶好の観光日和であった。気温も 20℃近くまで上昇し、上着一枚で十分快適に過ごすことができた。

見学は、館山駅→美女平→室堂→大観峰→黒部平→黒部湖・黒部ダム→扇沢のルートで、ケーブルカー、バス、ロープウェイなどを乗り継ぎながら移動する。乗り継ぎ回数は 6 回にもなる。

美女平、室堂、大観峰では、5 月でも雪景色を楽しむことができた。澄み切った青空と、白銀の雪山で構成された、雄大な景色が広がっていた。また、バスの移動ルート両脇にそびえる、10m を超える雪の壁は圧巻であった。

春の雪景色を堪能した後は、立山黒部アルペンルートの最終目的地、黒部ダムの見学である。黒部ダムは 1963 年に完成したアーチ式コンクリートダムで、186m ある堤高は日本一を誇る。超巨大コンクリート構造物である、黒部ダムの存在感は想像以上であった。手すりからダムの下を覗き込むと、身体が吸い込まれそうになる。



展望台から見える黒部ダム

見学コースは、どこも外国人観光客で溢れており、立山黒部アルペンルートが海外でも高い評価を受けていることが伺える。多くの犠牲者によって完成した黒部ダムが、日本に多くの恩恵をもたらしていることを実感した。



多くの外国人観光客で賑わう売店

この日の夜は、松本市内での自由食である。ホテルにチェックイン後、松本駅周辺に広がる飲食街に足を運んだ。最終日を作り切るスタミナを付けるため、焼肉とニンニクをたっぷり入れたラーメンを食べた。

3. 5月20日（土）

旅行最終日。この日は、松本城～旧開智学校を巡る松本市内観光の後、高知への帰路につく。

松本城は戦国時代に建造された城で、天守は国宝に指定されている。平地に建てられているため、高知城と比較すると迫りに欠けるというのが私の第一印象である。しかし、立山連峰を背景にそびえ立つ姿は大変美しく、多くの人を魅了していることに納得がいく。松本城にも多くの外国人観光客が訪れていた。



立山連峰を背景にそびえ立つ松本城

旧開智学校は、明治時代初期の洋風校舎である。正面玄関には、天使の彫刻が施された看板が掲げられている。芸術的デザインの校舎の姿から、文明開化の中で、最先端の技術を取り入れて、世界に追いつこうとする当時の人々の情熱を感じることができる。



旧開智学校の正面玄関

昼食は「石井味噌」で信州名物の信州味噌をふんだんに使った味噌料理を味わった。赤茶色の味噌は、予想よりもさっぱりしており、疲れた身体にちょうどよい、優しい味であった。

伊丹空港へはバスで5時間掛かる。道中、渋滞に巻き込まれることもなく、順調に伊丹空港へ到着した。飛行機も予定時刻どおり出発し、高知龍馬空港に無事に到着した。トラブルなく、今年度の社員旅行を終えることができた。

4. おわりに

今回の社員旅行は、3日間天気にも恵まれ、トラブル等なく、順調に旅を終えることができた。旅程の多くはバスによる移動であった。身体への負担は大きかったが、個人的に行くことは難しい地域への旅行であり、大変貴重な体験となった。また、以前から一度は訪れてみたかった黒部ダムを見学することができ、有意義な旅行になった。

社員旅行（立山黒部）

松井 繁信

1. まえがき

立山黒部アルペンルートは、以前に社員旅行の候補地となり希望したのですが、その時は残念ながら採用には至らなかったものです。今回目的地として決定されたため、満を持して参加致しました。



立山 室堂付近



ロープウェイからの黒部湖

写真でもわかりますように、三日間の旅行期間中は晴天に恵まれ、『このような快晴は年間に数日しかない。』とガイドさんに言わしめたほどでした。

2. 宇奈月温泉へ

初日は、伊丹空港から交通渋滞を避けるため中国自動車道～舞鶴若狭自動車道～北陸自動車道を経て福井県立恐竜博物館を見学し、宇奈月温泉に宿泊となりました。



恐竜博物館玄関での恐竜博士

宇奈月温泉は、日本の民法にとって重要である判例（昭和10年）「宇奈月温泉事件」の舞台となったことで有名です。当時の民法には定めのない権利濫用について初めて裁判所の判決が下され、戦後の民法改正において、権利濫用の禁止が規定される契機ともなりました。

温泉を堪能しながら、無粋な人は昔から居るもんだと改めて思ったことでした。

3. 宇奈月温泉から立山室堂へ

二日目、いよいよ旅行のメインである立山黒部アルペンルートへの出発です。

ほぼ全区間が中部山岳国立公園となっており、立山駅まで観光バスで行き、環境保護のためそこからはケーブルカー、高原バスを乗り継いで室堂に到着です。美女平・弥

陀ヶ原等の眺めは素晴らしいものでした。



高原バスからの眺め

到着直後、有名な「雪の大谷ウォーク」を体験し、昼食後はみくりが池周辺を望める高台に移動し、雪の感触と眺めを堪能。地獄谷の水蒸気も見ることができました。



雪の大谷ウォーク



みくりが池周辺

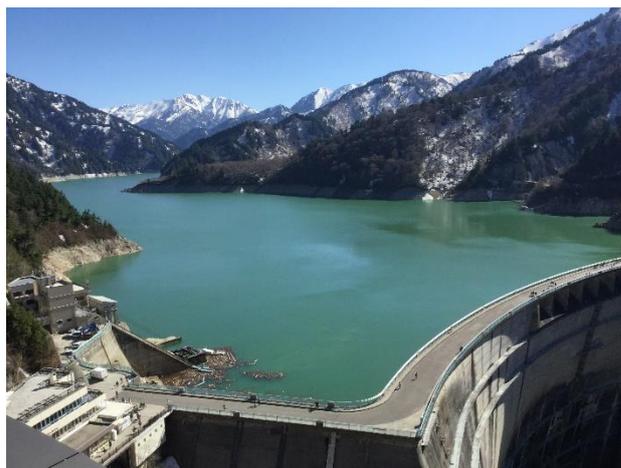
また、室堂駅横の立山自然保護センターでは立山の野鳥、植物、地質等のパンフレットも販売されておりました。

4. 室堂から黒部ダムへ

室堂から大観峰までは立山トンネルの中をトロリーバスに乗車し約10分で到着。カーブでパンタグラフの絶妙なしなりに感心。大観峰からはロープウェイとケーブルカーを乗り継いで黒部湖に。



黒部ダム本体下流側



黒部湖

バス車中で見せてもらったビデオがまだ脳裏にあり、映像のイメージと目前の景色をダブらせながら、建設に従事された方々

の苦労を偲び堤頂を歩きました。ダム建設に伴う犠牲者の慰霊碑は、周辺の工事のため、遠くからのお参りとなったのが残念でした。自然、ダムともにスケールの大きさに感動。

5. 松本市内にて

三日目は国宝松本城を見学し、背後に見える日本アルプスの雪山との取り合わせに新鮮さを感じるとともに、重要文化財旧開智学校校舎では、当時の日本が教育に対して持っていた国を挙げての熱意が感じられました。当時の、教育の重視とそれに伴う贅沢とも思える投資が、今日の日本の基礎となっていると思います。



旧開智学校校舎

6. まとめ

今回の旅行では、念願の一つであった黒部ダムを見ることができ有意義でした。旅行中考えたことの一つは、ダムのような大事業に関しての一般の関心は、建設工事に関する派手なエピソードに偏りがちですが、黒部ダムにしてもその計画自体は大正時代に遡るものであり、長期間にわたっての多くの人の地道な努力と苦労こそが、事業の成功に資する部分の多くを占めるのだと思います（勿論、工事に携わった多くの人も地道に取り組んだわけですが。）。

我々コンサルタントは、事業完成に関する基礎となる重要な部分を担うわけですから、日々の努力と精進が求められており、それを為し得た者が充実した日々を送ることが可能となるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、今回の旅行にあたってお世話になりました皆様方に厚くお礼を申し上げます。

平成29年5月23日

立山黒部アルペンルート社員旅行(2泊3日)

調査部調査測量課 西村 修

1. はじめに

今回の旅行先は、15年以上前に来て以来2回目の訪問であった。

前回は、8月の訪問ということもあり、雪もない状況であったが、今回は雪の壁が見られるということで楽しみであった。

また、今回は黒部ダムを苦勞して建設した背景を理解していたことから、前回とはまた異なる視点で観光できるのではないかという思いもあり楽しみであった。

2. 1日目(高知から富山へ)

1日目は移動日である。高知龍馬空港に7時に集合し、伊丹空港へ。伊丹から貸切バスで約3時間、昼前に昼食予定の鯖江に到着した。天候は晴れで気温についても高知とあまり変わらなかった。

鯖江はめがねの国内シェアの9割以上を占める眼鏡の有名な都市である。町にはいたる所に眼鏡の看板が見られた。



釜めし専門店の昼食

昼食は、鯖江の町中にある釜めし専門店釜蔵でのカニ釜めし御膳であった。

カニ釜めしの味については、思ったより薄味で本当のカニの風味で食べるといった感じであり最初は物足りないかなと感じたが美味しかった。

昼食後は、約1時間のバス移動で1日目の唯一の観光場所である、福井県立恐竜博物館に到着した。

日本最大の恐竜博物館ということであった。建物の形状は独特で、銀色の球状の形をしており、有名な建築家である黒川紀章の設計ということであった。天気の良い日は、反射して遠くまで光るとのことであったが、当日も光っていた。



恐竜博物館

博物館の観覧は、エスカレータで最初に地下に降りて、上に上がってくるといった流れであった。博物館は想像以上に大きく見応えがあった。動く恐竜も何体か展示されていた。

約1時間の観覧であったが、あっという間であった。

博物館観覧後は、福井→石川→富山に移動、北陸3県を約3時間で移動し、富山

の東部に位置する黒部市宇奈月温泉に到着した。黒部峡谷からの水が傍を流れる山間の温泉街であった。宿泊は延対寺荘という旅館であった。



宇奈月温泉

到着後約1時間で旅館内宴会場にて夕食となった。夕食についてはボリュームもありおいしかった。また朝食についても種類もあり、おいしく満腹となった。

温泉は、透明で澄んだ湯であった。

3. 2日目(立山黒部アルペンルート～松本市へ)

2日目は、ついにアルペンルートである。様々な乗り物を乗り継ぎ富山から長野へ向かった。旅館から立山駅までバス、あとはケーブルカー、高原バス、トンネル内はトロリーバス、途中で支柱のないロープウェイ等乗り継ぐものであった。天候については、非常に恵まれ終日快晴であった。



平日にもかかわらず、観光客が多く驚いた。ここは日本かと思わせるほどに周囲の人々は日本語を話していなかった。約8割は外国人観光客だそうである。こういった団体客がいることから、混雑しているのかと納得した。

乗り物に乗車するたびにすしずめ状態であった。以前訪問した時は、普通に座れてもっとゆったり観光できたイメージがあったため変化に驚いた。



称名滝

高原バスで室堂に向かう途中、日本一の落差350mを誇るといわれる称名滝も見ることができた。



室堂 雪の壁最高地点付近

標高が上がるにつれ雪深くなり、雪原が広がり絶景が広がった。

室堂では、雪の壁を見ることができた。

高さは、最高地点で16mであった。今年度4月15日の山開きの際は、19mあったそうである。気温は6度と書いていたが、実際は天候が良く体感温度は高かった。

壁の近くには、雪の迷路も造られており、子供まで楽しめるようになっていた。



昼食（山海彩弁当）

昼食は室堂のレストラン立山での山海彩り弁当であった。山海の幸を食べることができる普段あまり食べることのない弁当であった。

室堂からは、トンネル内を電気により走行するトロリーバスにより大観峰への移動であった。トンネル内では、トンネル工事時に難所であった破砕帯区間も分かるよう明示されていた。



大観峰より

大観峰では、階段を100段弱？上っての

展望所での黒部峡谷を臨むものであった。急な峡谷および立山連峰等を望むことが出来絶景であった。

大観峰からは、立山ロープウェイに乗り黒部平へ。このロープウェイは景観に配慮した支柱のないロープウェイであった。

黒部平からは、ケーブルカーにより黒部湖、黒部ダムに到着した。



黒部ダム

黒部ダムでは、幅が約400mある堤体を歩きながらダムおよび峡谷を堪能した。今の時期は、ダム放流の時期ではないということで、少し残念であった。

黒部ダム観覧後、黒部の太陽で有名な大町トンネルを関電トロリーバスで通過した。このトンネルでも当然ながら破砕帯区間が分かるよう明示されていた。

大町トンネルを抜けるとまた貸切バスにより約1時間で安曇野→松本へ

安曇野は、わさび、野沢菜が有名であるようである。

宿泊は松本市駅前のホテルに宿泊した。夕食は居酒屋での食事となった。

松本市名物？山賊焼き、馬刺し、信州そば等を食べどれもおいしかった。

5. 3日目(松本市から高知へ)

最終日は午前中松本市内観光で、昼からはバスにより伊丹空港へ移動→高知龍馬空港である。

松本城は、ホテル(松本駅)よりバスで10分程度の街中にあり、平地にある国宝の城である。



国宝 松本城

国宝の城は全国で5つあるそうで、その中でも戦国時代に建設された、最も古い城である。

城内に入ってみると、戦国時代の城ということもあり、階段は傾斜が急で上りにくく、1階には石を落とす石落があり、各階には、鉄砲や、弓矢のための鉄砲狭間や矢狭間という穴が設けられていた。3階には窓のない隠し階?もあり、外からみると5階建てに見えるが、実際は6回建てであるなどの仕掛けも見られた。また外観も大きな堀に映える黒い城は見ごたえがあった。

比較的ゆったりと観光できた松本城であるが、朝一番の入場ということもあり比較的空いていたようで、普段は入場制限もあるほどの人気ようである。

その後、松本城のすぐそばにある旧開智学校→信州 石井味噌へと移動し、味噌蔵で3年味噌(赤味噌)、1年味噌(白味噌)等の説明

を受けた後、昼食となった。



石井味噌蔵

昼食が味噌料理ということで、あまり期待していなかったが、内容としては、豚汁をメインとした、肉、おにぎり、そば、等がありそれぞれ自慢の味噌を使用しているものであり大変おいしかった。

6. おわりに

立山黒部アルペンルートは以前旅行で訪れていた。しかし、以前は時期が8月だったこともあり今回は今回で全く違う新鮮なものであった。

旅行は、時期、天候、状況等により印象が随分異なるということを痛感した。

個人旅行ではなかなか行く機会のない場所であるからも貴重な経験となった。

また旅の楽しみの一つは食事であるが、北陸、信州の食材を食べることが出来、良かった。個人的には意外と味噌料理が良かった。

今回、バス移動の時間が長すぎるのではという思いは正直あったが、思ったよりも苦痛に感じることもなくバスガイドさんによるガイドおよび黒部ダム建設のNHKプロジェクトXのDVD等により有意義に過ごせた。

2泊3日と社員旅行としては短めの旅行であったが、国内旅行もやはり良いと感じる旅行であった。

1. はじめに

平成 26 年度から候補としてあげられていた今回の旅行先。なかなか個人、家族などで訪れる機会があまりない場所であり、大きな期待を胸に 2 泊 3 日の北陸の旅に参加した。

2. 一日目(高知→富山県宇奈月温泉)

旅行前日の夜はなかなか寝付けなく子供のころの遠足気分を思いだした。

高知龍馬空港を 7:45 に出発し、伊丹空港に 8:30 に到着した。ここからがバス移動の多い長旅のはじまりである。



【伊丹空港】

【昼食】

バス乗車後に気持ちを旅行モードに切り替え、ゆらりゆらり約 3 時間、釜飯専門店「釜藏」に到着した。

外観はとても和の雰囲気にもまれており料亭みたいな佇まいであった。入り口には定休日と明記。今回の旅行のために開店したかは不明である。

料理のカニ釜飯御膳はビールとあわせて満腹となる美味しさだった。



【釜飯専門店 入り口】

【見学】

昼食後は国内最大級の「福井県立恐竜博物館」での見学会。恐竜に関する資料は約 4 万点を保管している大きな施設。恐竜の骨格、標本、特に動く巨大恐竜のスケールには驚かされた。



【福井県立恐竜博物館】



【動く巨大恐竜】

【宴会】

恐竜博物館から 4 時間ほど、バスの中で体力と気持ちを充電し、宿泊する「宇奈月温泉 延対寺荘」に到着した。

露天風呂は 21 時で閉まる男湯。宴会まで 1 時間しかないため、後でゆっくり温泉につかり疲れを癒やす事にした。



【延対寺荘】

大広間での宴会は移動の疲れもなく皆、料理、お酒、カラオケなど、いつもの第一コンサルタンツらしい宴会となった。残念だったのが白海老の炊き込みご飯を食べ忘れたのが心残りである。

宴会終了後、お酒の足りないメンバーは旅館内で2次会を開催。さらに部屋呑みを行い寝不足のまま、朝が訪れた。



【大広間での宴会】



【山と海の幸の懐石料理】

3. 二日目(立山・黒部→長野県松本市)

【立山黒部アルペンルート】

滞在時間は移動を含め富山県立山駅から長野県扇沢まで約6時間半、最大高低差約2,000mのルートである。

移動にはケーブルカー、トロリーバス(電気)、ロープウェイと乗り継ぎ、雪の大谷、立山連峰の雪景色、黒部ダムなどの絶景を望んだ。

標高2,450m、気温10℃と高知の1月ぐらいの服装が必要と思い、着込んで来た。しかし、思ったより寒くなく逆に荷物となってしまった。

【雪の大谷】

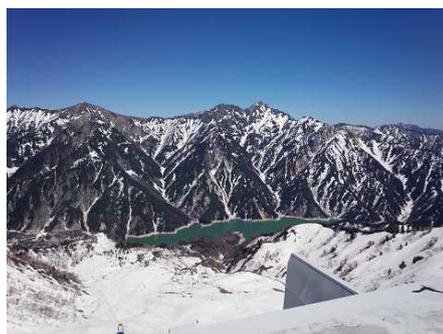
念願であった高さ19mの雪壁は想像以上に高く、ここに来ないと体験できない貴重な写真となる。



【雪の大谷】

【立山連峰】

山頂3,015mを望んだ景色は優雅であった。写真中央に見える湖畔は黒部ダムである。



【県境の赤沢岳を望む】

【黒部ダム】

標高1,454mにあり、高さ186m、長さ492mのダム。電力を確保するために立ち上がった大プロジェクト。山岳地の急で危険なこの場所の建設に携わった人達の偉大さに感動した。



【黒部ダム】

4. 三日目(長野県松本市→高知)

昨夜も気の合う仲間と松本市の夜を過ごした。あまり疲れもなく、市内観光へと足を運んだ。

【国宝松本城】

五重天守は松本城と姫路城の2城だけ。北アルプスの山々の残雪、内堀の水面に写しだした城郭は、とても絶景であった。



【北アルプスと松本城】



【天守閣からの赤い埋橋(うずみばし)】

【旧開地学校校舎】

明治時代の擬洋風学校建築で国内初めて重要文化財の指定を受け、質・量ともに日本一の教育資料が保存されている校舎である。外観の洋風さもあり、校内ではその時代の様子が思い浮かぶ感じになった。



【洋風の校舎】



【教室】

【昼食】

信州三年味噌醸造元である「石井味噌」での昼食となった。

味噌の良い香りのする古民家風の店内で味噌づくしのランチを堪能した。みそ汁を好む自分にとっては家庭でも味わいたく、三年蔵の赤味噌と白味噌を購入した。



【蔵元のランチ】

【旅のおわり】

高知龍馬空港に20時頃到着。長くて短く感じるほど、想像より楽しめた立山黒部の旅であった。

乗り物の移動がほとんどだったが、それを忘れることのできる優雅で壮大な情景、ご当地の食も楽しめた。また、上司、若手社員との交流も深め、普段とは違う一面も垣間見ることのできる有意義な時間でもあった。

来年以降の旅行にも期待し、帰宅後は信州蕎麦を食し、床についた。

立山黒部アルペンルートの旅

調査部 調査測量課 伊藤哲也

1. はじめに

5月18日～20日の3日間、立山黒部アルペンルートの旅に参加しました。福井県や富山県といった北陸地方にはなかなか旅行する機会がないので今回の旅行は非常に楽しみでした。

2. 福井県立恐竜博物館(1日目)

昼食を済ませ最初に見学したのは福井県立恐竜博物館でした。



写真：恐竜博物館

館内には、恐竜の全身骨格模型や、まるで生きているかのように躍動するロボット模型が展示されていました。展示室には、44体もの恐竜全身骨格、千数百点の標本、大型復元ジオラマ映像があり、大変見応えがありました。



写真：全身骨格模型

恐竜の博物館に行ったのは小学生以来で、童心に帰り、わくわくした気持ちで見学することができました。1時間という短い時間だったのが残念でした。

3. 宇奈月温泉・延対寺荘(1日目)

博物館の後は宿泊先となる、富山県の延対寺荘に移動しました。



写真：延対寺荘

温泉は時間の都合上、到着してすぐに入りました。長時間のバス移動の疲れもきれいに洗い流すことが出来ました。

夜の宴会では、カラオケ大会で大いに盛り上がりました。料理もおいしく、特に日本海で採れるホタルイカは絶品でした。宴会は二次会、三次会と続き、修学旅行のような楽しい夜になりました。普段話すことの少ない方々とも交流を深めることができ、とても良かったです。



写真：宴会会場の様子

4. 立山黒部アルペンルート(2日目)

2日目は旅行のメインイベントとなる立山黒部アルペンルートに向かいました。雲一つない晴天となり素晴らしい景色が広がっていました。



写真：黒部・立山

立山駅からケーブルカー、バスと乗り継いで山頂へ向かいました。

山頂が近づくにつれ一面銀世界となり、テンションも徐々に高まってきました。事前に山頂の気温は10°以下になると聞いていましたが、天気が良かったためか、あまり寒く感じませんでした。歩き回ったので汗が出るほどでした。



写真：山頂・室堂

雪の大谷は高さ16mもあり圧巻の景色でした。過去には20m以上になった事があるようです。

平日ではありましたが観光客が多く、そのほとんどが中国、台湾等の外国人観光客でした。観光シーズンで人が多いのは仕方ないですが、もう少し落ち着いて見学したかったです。



写真：雪の大谷



写真：観光客の様子

その後、トロリーバス、ロープウェイ、ケーブルカーと乗り継いで黒部ダムへと向かいました。日本一大きいダムという知識しかありませんでしたが、1日目のバス移動中に黒部ダム建設のDVDを見たので、ダムの大きさに圧倒されるだけでなく、作業員の方の壮絶な戦いを思い浮かべながら見学することが出来ました。



写真：黒部ダム

ダム建設中7年間で殉職された方が171名もいたそうです。現在のダム建設ではあり得ないことだと思います。実際に慰霊碑を見学したかったのですが、工事中で見ることが出来ませんでした。非常に残念でした。



写真：殉職者慰霊碑

5. 松本城・旧開智学校(3日目)

3日目は国宝・松本城と重要文化財・旧開智学校を見学しました。



写真：松本城

江戸時代に築かれた高知城と違い、戦国時代に築かれた松本城は、外壁が黒く堅固な天守で、戦うための城でした。泰平の世になって造られた月見櫓は他と違い開放的で優雅な雰囲気を感じました。



写真：本丸御殿跡

本丸御殿跡は城主の居所と政庁を兼ねていた場所であったようです。焼失以後再建されていません。冬場には緑の芝に雪が積もり、また違った景色を楽しめるようです。



写真：旧開智学校

松本城見学後はすぐ北にある旧開智学校を見学しました。

この校舎は昭和38年まで約90年間にわたって使われた、国内で最も古い小学校校舎のひとつです。



写真：校舎の内部

上の写真は講堂として使われていた場所で、校内で最も広い部屋です。外観もそうですが、和風と洋風が混ざり合った擬洋風の校舎はおもむきのある建造物でした。

校舎見学後は信州石井味噌で昼食をとり帰路につきました。



写真：石井味噌にて昼食

6. おわりに

今回の旅行は3日間とも天候に恵まれ、素晴らしい景色を見ることが出来ました。温泉にも入り体もリフレッシュ出来たと思います。各観光地を短い時間で見学しなければならなかったのが全てを見ることは出来なかったと思います。まだまだ面白そうな場所がありそうでした。また、冬場近くになれば違った景色が見られそうで、何度訪れても楽しそうです。今回の旅行ではいろんな観光地を回りましたが1箇所をじっくり観光するのも良さそうです。

遠方なので、なかなか自分で行くのは難しいと思いますが機会があれば再度訪れたいです。

平成 29 年度社員旅行

調査測量課 西村 研了

1. はじめに

今年の社員旅行は2班に分かれ、北陸・信州2泊3日の旅。私は1班目で5月18日～5月20日にかけて、自身初の立山黒部アルペンルートを旅した。

2. 1日目

1日目は高知龍馬空港7:45発ANA1600便ボンバルディアDHC8-Q400にて大阪伊丹空港へ。



(高知龍馬空港にて)

到着後、加越能観光の貸切りバスで次の目的地である福井県立恐竜博物館へ向かう。途中、福井県鯖江市にある釜飯専門店「釜蔵」で昼食。専門店だけあって釜飯を美味しく頂いた。



(カニをふんだんに使った釜飯)

13:00頃福井県立恐竜博物館に到着。恐竜の歴史・文化を1時間程学んだ。



(福井県立恐竜博物館)



(福井県立恐竜博物館内)

18:00頃宿泊先である宇奈月温泉延対寺荘に到着。温泉に入浴後、夕食は2時間ビールに地酒の飲み放付きの大宴会。宴は二次会までつづき夜は更けていった。



(地元食材をふんだんに使った料理)



(二次会の様子)

3. 2日目

8:00に旅館を出発し、立山黒部アルペンルートへの登り口駅でもある立山駅に向かう。到着後、ここでお世話になった加越能観光バスとはお別れ。立山駅の標高は475mもある。ここから立山ケーブルカーに乗り高原バスを乗り継ぎ標高2450mもある室堂に11:00頃到着。昼食後は1時間程の自由時間で雪景色を楽しんだ。



(レストラン立山にて山海彩り弁当)



(室堂平広場)



(雪の大谷)

自由時間後は、黒部ダムへと向かう。室堂より立山トンネルトロリーバス、立山ロープウェイ、黒部ケーブルカーに乗り黒部

ダムに到着。一気に標高1000m近く下った。



(黒部ダム中心で標高は1454m)



(黒部湖)

黒部ダムを散策後は、関電トンネルトロリーバスで扇沢駅まで下山する。扇沢駅より、これからお世話になるALPICO交通の貸切りバスで1時間程かけて宿泊先である松本市へと向かった。到着後はホテル近くにある居酒屋で疲労回復のためと最後の晩餐となるため、生ビールで乾杯。信州料理を美味しく食した。特にホタルイカの刺身と野沢菜のワサビ漬けは美味しかった。締めは信州蕎麦を食べて松本市の夜とお別れをした。



(居酒屋で乾杯)

4. 3日目

8：30にホテルを出発し、まず向かった先は天守閣が国宝となっている松本城。黒と白のコントラストがアルプスの山々に映えて見事な景観だった。



(名城松本城)

次に向かったのが、明治時代初期の洋風校舎で重要文化財となっている旧開智学校校舎。文明開化時代の小学校建築を代表する建物として広く知られている。

そして最後に向かったのが、昼食先となる(株)石井味噌。ここでは信州石井味噌作りの製造方法、歴史を学んだ。



(地元食材と信州石井味噌で昼食)

昼食は信州石井味噌をふんだんに使った料理で美味しく頂いた。昼食後は売店で本場信州味噌を買ったり、味噌ソフトクリームを食べたりと時間があっという間にすぎる。その後、バスで5時間かけて大阪伊丹空港へ向かう。19：20発ANA1647便ボンバルディアDHC8-Q400にて高知龍馬空港へ無事帰高し家路についた。

5. おわりに

今回の旅行3日間は天候、気候に大変恵まれ、日本三大アルプスである飛騨山脈・木曾山脈・赤石山脈の絶景を見ることができた。2日目に行った立山黒部アルペンルートでは、室堂平広場の雪景色は絶景で、雪の大谷の高さは当日で16mもあり、いい体験ができた。また、日本を代表するダムでもある黒部ダムはアーチ式コンクリートダムで、ダムの高さは186mもあり日本一。規模が大きく壮大であった。放水時期でなかったのが残念。また、黒部ダム工事期間中の労働災害による殉職者が171人にも及ぶと聞いて、いかにダム建設工事が大変だったのかがうかがえる。また立山黒部アルペンルートに行く機会があれば、夏の景色も楽しみたい。最終日には、行って見たかったお城の一つ、日本100名城にも選ばれている松本城。天守が国宝指定された5城のうちの一つの城。松本城の歴史・文化を学ぶこともでき、景色も絶景だった。

今回、旅行での移動手段であるバス移動が長かったが、その分バスで睡眠もとれ疲れもとれた。また、初のボンバルディアDHC8-Q400に乗ることができた。また今度は新幹線で行ってみたい。

立山黒部アルペンルート

調査測量課 山本 崇顕



展望台からの黒部ダム

1. はじめに

今回は、かねてよりの希望地でもある立山黒部アルペンルートへ社員旅行に向かう。アルペンルートを訪れたことのある方々からは、『一度は行った方がいい。行く価値はある。』との声を聞き、いっそう期待が膨らみます。標高差のある場所でもあるため、防寒着を準備し、多めの荷物をスーツケースに詰め込んで高知龍馬空港へと向かいました。

2. 福井県立恐竜博物館

恐竜博物館は、私が密かに楽しみにしていた場所でした。中には化石や恐竜骨格などが多数展示されており、人間と比べると、こんな巨大な生物が、実際に地球上に存在していたのかと、目の前に立っても疑ってしまうほどの体格差でした。館内も幻想的な雰囲気、まさにその時代にいるような感じにさせてくれました。

今回予定にはなかった、野外での化石発

掘体験にも参加してみたいので、次回はプライベートで家族と一緒に楽しみたいと思います。



館内の様子

3. 立山黒部アルペンルート

天候にも恵まれ、雪化粧した北アルプスの山々もはっきりと見ることができ、ガイドさんのお話では、ここまで晴天なのは滅多にないとのことでした。

出発地点の立山駅では、海外からの旅行者であふれ、現在は訪れる人の約8割は、海外からの旅行者だと聞いたときは驚きましたが、同時に日本の技術者が作り上げた黒部ダムが、海外からも興味をもってくれていることに、うれしさと誇りを感じました。立山駅から乗り物を取り継ぎ、雪の大谷で下車すると、道路の両サイドには10m以上積み上がった雪の壁を見ることができます。実際に歩いて近くまで行くと、そそりたつ壁に圧倒され、まさに圧巻の一言でした。



雪の大谷

雪の大谷を後にし、いよいよ黒部ダムに到着です。現在でも国内一位の高さ 186m のアーチ形ドーム越流型ダムですが、何より驚きなのは、建設されたのが昭和 38 年であることです。当時の最新技術を導入しての建設工事だったとは思いますが、あれだけ奥地に建設するとなると、資材を運ぶだけでも相当な苦労があったのではないかと容易に想像できる場所でした。



黒部湖と立山連峰

周囲の雄大な景色を堪能しながらそびえ立つ黒部ダムを歩いていると、黒部ダムの中心という看板が目についた。そこから下をのぞいた風景は、高所恐怖症の方なら卒倒できるほどの迫力です。



様々な困難を乗り越え、言葉どおり関西地域に光を運んだ、技術者の強い信念と情熱を感じながら黒部ダムを後にしました。

4. 松本城・旧開智学校

国宝松本城は五重の天守からなる平城で、北アルプスの山々を背景にした景色は他の城にはない絶景を見せてくれました。また、外観は五重ですが、内部は六階という外からは見えない階ができていました。そのほかにも、天守閣に登る階段は非常に急で、敵の侵攻を少しでも防ぐための工夫がいたる所になされていて、戦乱の時代を垣間見ることができました。

旧開智学校は、明治時代初期の洋風校舎であり、その建物の中には、当時の様子を残した写真や教室があり、その頃の様子を写真からではあるが、想像することができた。中でも私が驚いたのは、学童が書いた作文である。しっかりとした文面で、強い意志が伝わってくるような、そんな熱意を感じる作文でした。



松本城と北アルプス



旧開智学校

5. おわりに

今回、立山黒部アルペンルートを訪れることができました。写真や映像では幾度となく見てきた場所ですが、これほどの雄大さを目にするとはいえませんでした。実際に現地に行って自分の目で見ることの大切さを、今回の旅で十分すぎるほど教えて頂きました。限られた時間の中で、十分に見て回るができなかった場所も多々ありましたので、また次回の楽しみにしたいと思います。

社員旅行に参加して

調査補償課 西森 尚人

1. はじめに

中部地方は高校の修学旅行(長野)以来となります。普段は旅行となると下調べをし、意気込んで望むのですが、今回は景観の素晴らしいところなので、高校時代のぼんやりとしたイメージのまま、ありのままを楽しもうという思いで出発を迎えました。

2. 1日目

旅行日程を確認した時から分かっていたことですが、1日目はバス移動の日でした。ただ、車中では「シリーズ黒四ダム」のビデオを見たり、車窓を眺めたりと、この日唯一の観光地である福井県立恐竜博物館へは、時間ほど長くは感じませんでした。恐竜博物館では子供のお土産をここぞとばかりにたくさん買いましたが、結果的には撮影しておいた恐竜の動画が一番だったようです。



大好評のお土産

その後の宇奈月温泉では、初日ながらも感じていた疲れを、宴会と温泉で癒やしながら遅い就寝につきました。

3. 2日目

二日目、いよいよ旅行のメインである立山・黒部アルペンルートへ出発しました。この日バスガイドさんからあった話ですが、「このような快晴は年間に数日しかない」「もう一度行きたい観光地No.1であり、2度と行きたく

ない観光地No.1」というフレーズはずっと頭に残っています。そんなフレーズ通りの雪山の「白」と晴天の「青」は壮大で本当に素晴らしいものでした。



雲ひとつ無し 立山室堂付近



自然の「青」が印象的 みくりが池周辺

それからトンネルトロリーバス、ロープウェイ、ケーブルカーと乗り継ぎ黒部ダムへと向かいました。



ケーブルカーは超満員

残念ながら期間限定である観光放水は見ることは出来ませんでした。186mという高さは人の手によるものとは思えませんでした。だからこそ建設に従事された方々の苦労は目の前の建造物を通じて感じる事が出来ました。171名もの尊い犠牲により完成されたということも決して忘れてはならないことだと思います。慰霊碑は残念ながら工事中ということで見ることは出来ませんでした。黒部湖と立山連峰、そして黒部ダムという一大パノラマは感動そのものでした。



黒部ダムと黒部湖

4. 3日目

前日に歩いて回ったこともあり、朝は寝坊寸前でしたが、忘れ物も無く最終日のバスへ乗り込みました。宿泊が松本市内ということもあり、目的地である松本城や旧開智学校へはあっという間で1日目の移動が嘘のようでした。



優雅な月見櫓と天守

松本城は平和な時代に造られた月見櫓と戦国の時代に造られた天守とに分けられており、それは城内・城外からもはっきりと分かるもので、普段見慣れている高知城とは違い、とても特徴的なものでした。次に向かった開智小学校においても、「擬洋風建築」といった文明開化の特徴的な造りであり、ともに時代を背景に感じる事ができるものでした。そして、当時の職人の熱意はとても細部な部分にまで、わたっていることに驚きました。



柵目は自然なものでなく塗られている

5. おわりに

希望していた旅行地とは違っていましたが、きっとこの先機会が無ければ訪れることはなかったと場所だと思います。そういった中で素晴らしい景色を見たり、新たな発見をしたり、親睦を深めながら3日間過ごせたことはとても有意義な時間となりました。「行動しないと分からないことは大いにある」と多くの場面で感じました。



立山の番人

社員旅行

～ 立山黒部アルペンルートの旅 ～

調査部 空間情報課 大利 飛鳥

はじめに

5月18日(木)～5月20日(土)の3日間、第一班で信州立山黒部アルペンルートの社員旅行に行ってきました。日頃の行いが良かったのか、強力な晴れ男(女)がいたのかわかりませんが、天気に恵まれました。

1日目



高知龍馬空港から伊丹空港へ着いたのはAM8時半頃。松山事務所の社員と合流し、バスで福井県の鯖江市内にある釜めし専門店「釜蔵」へ向かいました。



こちらの「釜蔵」さんは本来定休日でしたが、私達のためだけにお店を開けて下さっていました。

「カニ釜めし御膳」は、お米が隠れるぐらいカニの身がたくさん入ったやさしい味でまた機会があれば食べたくなる味でした。



昼食の後は、この日唯一の見学先である福井県立恐竜博物館です。道からは大きな銀色の恐竜のたまごが見えました。展示資料の規模は国内最大級で、恐竜の骨化石やアンモナイト・隕石・地層など数多くの化石が展示されていました。展示物以外にも化石発掘体験も出来るようで、子供だけではなく大人も充分楽しめる施設でした。



この日の宿は、富山県黒部市にある宇奈月温泉の老舗旅館「延対寺荘」です。到着後すぐに温泉に入り、慌ただしいなか宴会がはじまりました。



旅の醍醐味は、その土地の美味しいものを食べる事と私は思います。富山ならではの料理、そしてお酒を堪能させていただきました。

※献立の内容は下記のとおりです。

前菜：旬の前菜盛り

造り：季節のお造り 三種盛り

名水仕込の生地の飯沢醤油

凌ぎ：昆布うどん

焼き物：鯖味噌焼 名水ポーク味噌漬

落味噌 茗荷竹酢漬

焜炉：鰻柳川鍋

油物：ニギスと細竹の天麩羅

酢の物：海鮮サラダ 蛸烏賊 海老 蛸

椀：すまし汁仕立て

食事：白海老釜飯

香物：二種盛り

水菓子：季節のデザート

献立を見るだけでも美味しそうですが、実際に口にしても美味でした。

2日目



2日目は、立山駅(標高 475m)から立山ケーブルカーに乗って美女平(標高 977m)へ行き、立山高原バスに乗り換えて室堂(標高 2,450m)のターミナル立山(日本最高所のリゾートホテル)に移動しました。室堂は標高も高く、気圧(760hPa)も平地の約 4分の3しかないため、ターミナルの階段を少し上がっただけでも息切れがしました。気温は不明ですが、晴れていたため七分袖のニットと薄手のダウンで充分過ごせました。



お昼ご飯はターミナルの2階にあるレストラン立山で山海彩り弁当とさらさら鍋(沙羅沙羅汁)をいただきました。さらさら鍋は、ここ室堂の名物でお揚げとつみれと白玉と野菜の角切りが入った、シンプルな醤油味のお汁です。話によると戦国時代の武将に由来する地元の伝統料理をアレンジしたお吸い物だそうです。汁物が大好きな私は、もう一杯食べてしまい後で後悔する事になりました。

その後、電気で走る立山トンネルトローリーバスで大観峰(標高 2,316m)まで移動し、立山ロープウェイに乗り換えて黒部平(標高 1,828m)まで下りました。



さらに黒部ケーブルカーに乗り換えて黒部湖駅(標高 1,455m)まで下りてトンネルを出ると、そこで目を引いたのは超巨大建造物。高さ 186m(国内1位)、総貯水量は約 2 億 m^3 という世紀の大事業として語り継がれている黒部ダムの姿でした。



見どころは、毎秒 10t 以上の水が流れるダイナミックな観光放水ですが、残念ながら放水の時期には一ヶ月ぐらい早く、見る事が出来ませんでした。ダム展望台へは、30 分と限られた時間しかないにもかかわらず、片道約 15 分と説明書きされた 270 段ぐらいの階段を必死で上がり、ダム随一のパノラマ絶景を目の当たりにして、湧水を飲みなんとか時間内に黒部ダム駅まで戻りました。



ダムのそばにある施設で、幻の埋蔵金ソフトクリームを食べている人もいました。

全体集合写真の撮影後、黒部ダムをあとにして扇沢(標高 1,433m)まで電気で走る関電トンネルトローリーバスで下り、バスで松本市内へと向かいました。

2日目の宿泊先は松本東急 REI ホテルです。さっきまでいた山の上の気温とは違い、松本市内は半袖で歩き回れるぐらい暑かったです。ホテルに到着したあとは自由行動となり、各自が長野ならではの食事とお酒を堪能しました。



松本城も晴天に恵まれ、真っ白なツツジと青空が絵のように綺麗でした。



松本城の正門と言われる黒門前には、小笠原秀政公と登久姫さまがおもてなし中で、運良く記念写真を撮ることができました。



重要文化財に指定されている松本市立博物館分館旧開智学校には、10万点を超える収蔵資料があるそうです。

この建物には、教育資料(明治以降の教科書や日誌等)と建築資料(松本の木工棟梁立石清重関連資料等)があり、河川改修工事のため現在地に移築復元されているとのこと。そのためか、明治6年開校の割りにきれいだと感じながら校舎の中を歩きました。懐かしい木の机や椅子もあり、皆で座ってみました。机の上の板が開くのにはびっくりしましたが、子供の頃に帰り遊んでしまいました。擬洋風建築と説明されましたが、見た目は西館です。しかし屋根瓦という面白い建築様式です。



私のこの旅一番の楽しみ石井味噌は、創業慶応四年で今の当主が五代目と年季の入ったお店です。なかでも三年味噌が売りで、大きな樽が蔵の中にたくさんあり、入口付近から味噌のいい香りがしていました。



昼食はここで味噌づくしランチです。三年味噌の豚汁がメインで、大きなお椀にたっぷりの具。これだけでお腹が張ります。信州手打ちそばにも味噌がのせてあり、今まで食べたことのないアレンジでしたがとても美味しかったです。味噌田楽や生野菜に味噌ドレッシングがかけてあり、味噌焼きおにぎりや味噌アイスと、味噌が入ってないものがないぐらい味噌をふんだんに使った、信州の名物昼食に大満足でした。昼食も早々に終わらせ皆、味噌を買いにホールへ。三年赤味噌、三年白味噌、お漬物やおかず味噌、味噌クッキーや味噌バウムクーヘンなどたくさんのおみやげを扱っていました。



あとは高知へ帰るだけとなりました。12 時前に石井味噌を出発。松山事務所の社員は飛行機時間の関係もあり、伊丹空港へは 17 時までに着くように、バス休憩を 2 回挟んでのほぼ 5 時間バスに乗りっぱなし状態となりました。バスの中では、ほとんどの人が寝ていました。



伊丹空港には 17 時に 2, 3 分前ぐらいに着き、松山便の 3 名は足早に挨拶を済ませ飛行機の搭乗手続きをするため帰って行きました。私達は、1 時間半ぐらい時間があつたため荷物を預けたり、お土産を買ったりと各自自由時間があり、たこ焼きや明石焼きを食べたりしました。



伊丹空港 19 時 20 分発の高知龍馬空港 20 時 05 分着は 20 時前に着き無事高知へ戻って来ることができました。



最後に、この 3 日間岡山から来てくださっていた(株)日本旅行の宮川さん、本当にありがとうございました。私達が昼食や宴会をしている時も、接客に従事しお酒を運んでくれたり、カラオケの曲を入れてくれたりと動き回ってくれていました。

最後まで私達のために動き回って下さった宮川さんは、このあと岡山へ帰ると聞きました。帰宅時刻は、もちろん夜中の 1 時を過ぎる事になるでしょう。そんな宮川さんを見ていると、まだまだ自分も頑張らないといけないなど痛感しました。

今回の旅行に参加したことにより、たくさんの経験と知識を得ることができました。親睦会の皆さんにも感謝しています。本当にありがとうございました。

2017年度 社員旅行～立山黒部アルペンルートの旅～

調査部空間情報課 徳橋 蓮

1. はじめに

平成 28 年 5 月 18 日 (木) ～20 日 (土) の 2 泊 3 日の社員旅行に参加した。旅行の主な目的は、富山県中新川郡立山町に建設されている日本一の堤高を誇る「黒部ダム」の見学であった。その他に、福井県立恐竜博物館や室堂という標高 2000m 級の観光地、松本城の見学も行った。

2. 福井県立恐竜博物館

高知龍馬空港 7:45 発の ANA1600 便で伊丹空港に行き、大型バスで一つ目の目的地である福井県立恐竜博物館へ向った。

2 時間ほど移動したところで、昼食場所に着いたが、駐車場に車が 1 台も止まっていない。まさかあまり人気のない店かと一瞬よぎったが、なんと貸し切りになっており、店構えは高級料亭のような外観で、一般客が気軽に入れそうな雰囲気ではなかった。昼食は「蟹釜めし(写真-1)」で、釜めし自体はとても薄味で、素材本来の味を味わうことができ、普段いかに味付けの濃いものを食べているのかよく分かった。



写真-1 蟹釜めし

昼食を終え 1 時間ほどで恐竜博物館に到着した。ここは日本を代表する博物館で、施設全体がとても大きく、館内に入ると大きな吹き抜けがあり博物館らしくない構造で驚いた。恐竜化石の展示場では大きなティラノサウルス(写真-2)が待ち構

えていた。当然ロボットであるが、皮膚の造形や自然な動きがとてもリアルであった。



写真-2 ティラノサウルス

恐竜以外にも展示物はたくさんあり、なかでも天然石の展示が綺麗であった。

博物館を後にし宿泊先の延対寺荘(写真-3)へ向った。延対寺荘まではバスで 3 時間かかり、とても疲れた。

夕食は、うなぎを使った鍋料理でとても美味しかった。



写真-3 延対寺荘

3. 美しい室堂

翌朝 8:00 に旅館を出発し、室堂に向った。

室堂に着くと両側に雪の壁が見えてきた。ここは雪の大谷ウォーク(写真-4)という絶景観光名所である。この日の積雪は最高で16mあり、五月にしては高いとのこと。こんな景色が見られるのはここだけではないだろうか。

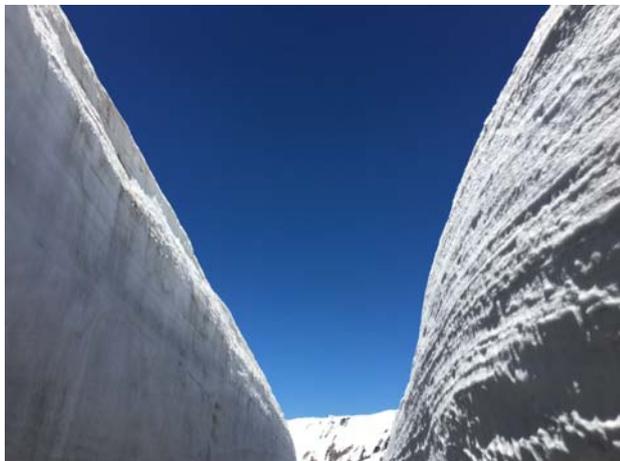


写真-4 雪の大谷

室堂を散策していると、特別天然記念物の雷鳥(写真-5)を見つけた。雷鳥がいた周辺にはハイマツ(マツの一種)がたくさん生えていて、バリケードをしている所がいくつかあった。何故だろうと思っていると、ハイマツの木の下が雷鳥の巣作りの場所になっているとのことであった。



写真-5 雷鳥

4. 黒部ダム

室堂からバス、ケーブルカー等乗り継いで黒部ダムに向った。ケーブルカー内は身動きがとれないほど多くの人で大混雑し、正直つらかった。

黒部ダムに到着した。ダム本体の大きさにも驚いたが、周囲の地形が雄大で、右岸側には大きな

岩山(写真-6)がそびえ立っていた。

こんな急峻な場所に、こんな大きな構造物が人間の手で造られたとはとても信じられない状況であった。



写真-6 本堤右岸側の岩山

私はここに来る前、ダム建設の際に亡くなられた方々の慰霊碑を参拝しようと考えていたが、工事中で立ち入れずとても残念であった。

黒部ダムを後にし、宿泊先の東急 REI ホテルへ向った。到着後、調査部の方と松本市内へ夕食に出かけ、色々店を探した結果、名物信州そばを堪能した。夕食後も松本市内を観光しホテルに帰った。

5. 松本城

朝8:30に東急 REI ホテルを出発し、松本城へ向った。松本城(写真-7)は絵になる風景で、背景に北アルプス山脈を望むことができる。



写真-7 松本城と北アルプス

城内は、階段の一段の高さが非常に高く、上り下りが大変であった。

その後、旧開智学校へ行った。とても不思議な外観で、和と洋を織り交ぜたような建物であった。

観光後、信州石井味噌という味噌屋で昼食(写真-8)をとった。



写真-8 ランチ

豚汁がとても美味しく、最後に味噌アイスを食べたが味噌と言われなければ分からない不思議な味がした。

昼食後、帰高のため伊丹空港に向かい、19:20発の飛行機で無事高知に到着した。

6. あとがき

今回の旅行は、自然に囲まれた中で美しい景色や、歴史ある建造物を間近で見ることができ、非常に良い体験となった。特に2日目に行ったアルペンルートは、また行きたいと思った。

今回の旅行の段取り等をしてくださった、親睦会や会社の皆様に感謝します。